

Oracle® iPlanet Web Server

リリースノート

7.0.13

E25457-02

2011 年 12 月

Oracle iPlanet Web Server リリースノート, 7.0.13

E25457-02

Copyright © 2001, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことによって起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、オラクル社またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	ix
改訂履歴	ix
ドキュメントのアクセシビリティ	ix
表記規則	x
1 Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 リリースノート	
1.1 Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の新機能と拡張機能	1-1
1.2 Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 で解決された問題	1-2
1.3 ハードウェアとソフトウェアの要件	1-2
1.3.1 製品パッチ	1-2
1.3.2 サポートされるプラットフォーム	1-3
1.3.3 サポートされる JDK	1-3
1.3.4 システム仮想化のサポート	1-3
1.3.5 オペレーティングシステム用パッチ	1-3
1.3.6 サポートされているブラウザ	1-4
1.3.7 非推奨に関する注意点	1-4
1.4 インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点	1-5
1.4.1 インストールの注意事項	1-5
1.4.2 移行の注意事項	1-6
1.4.3 アップグレードの注意事項	1-6
2 既知の問題点	
2.1 Web Server の管理の問題	2-1
2.2 Web Server のコアの問題	2-8
2.3 Web Server の FastCGI の問題	2-10
2.4 Web Server のインストールの問題	2-11
2.5 Web Server の移行およびアップグレードの問題	2-12
2.6 Web Server のサンプルアプリケーションの問題	2-16
2.7 Web Server の検索の問題	2-16
2.8 Web Server のセキュリティーの問題	2-16
2.9 Web Server のセッションレプリケーションの問題	2-17
2.10 Web Server の Web コンテナの問題	2-17
2.11 Web Server のローカリゼーションの問題	2-18
2.12 Web Server の Sun Java Enterprise System の問題	2-19

3 製品マニュアル

3.1	Web Server のドキュメントセット	3-1
3.2	ドキュメントの訂正、内容の追加、および解決された問題.....	3-2
3.2.1	証明書チェーンの更新.....	3-3
3.2.2	Web Server プロセスのハングアップまたは応答不能時にデバッグデータを収集する 手順の訂正.....	3-4
3.2.3	%duration% ログパラメータで使用される時間単位についての記述の明確化.....	3-4
3.2.4	セッション複製のための Web アプリケーションの設定に関する追加情報.....	3-5
3.2.5	http-client-config の timeout パラメータについての情報.....	3-5
3.2.6	http-client-config への exclude-escape-chars パラメータの導入.....	3-5
3.2.7	Red Hat Linux オペレーティングシステムでの PID ファイルの消失	3-6
3.2.8	トークン名.....	3-6
3.2.9	Solaris 10 での SMF の使用.....	3-6
3.2.10	set-cookie ヘッダーの問題	3-6
3.3	ドキュメント、サポート、およびトレーニング.....	3-6

A 以前の Web Server 7.0 リリースの機能および拡張機能

A.1	7.0.12 の諸機能および拡張機能.....	A-1
A.1.1	セキュリティコンポーネントのアップグレード.....	A-1
A.1.2	http-client-config SAF への exclude-escape-chars パラメータの導入 ...	A-2
A.1.3	servlet-container 要素への httponly-session-cookie プロパティの 導入	A-2
A.2	7.0.11 の諸機能および拡張機能.....	A-2
A.2.1	JDK バージョンの更新	A-2
A.3	7.0.10 の諸機能および拡張機能.....	A-2
A.3.1	htaccess 認証グループファイルでのグループ行の最大長が増加.....	A-2
A.3.2	JDK が 1.6.0_22 に更新.....	A-2
A.3.3	NSS が 3.12.8 に更新	A-3
A.4	7.0.9 の諸機能および拡張機能.....	A-3
A.4.1	SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消	A-3
A.4.2	JDT Java コンパイラのサポート	A-3
A.4.3	Oracle JRockit JDK のサポート	A-3
A.4.4	認証時のセッション ID の変更機能.....	A-4
A.4.5	大型アプリケーションで add-webapp の --directory オプションが非推奨に.....	A-4
A.5	7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能.....	A-4
A.6	7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能.....	A-5
A.6.1	非推奨のプラットフォーム	A-5
A.6.2	SSL/TLS の脆弱性の修正 (CVE-2009-3555).....	A-5
A.7	7.0 Update 6 の諸機能および拡張機能.....	A-6
A.8	7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能.....	A-6
A.8.1	バイナリロギング.....	A-6
A.9	7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能.....	A-7
A.9.1	REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME のサポート	A-7
A.9.2	default-sun-web.xml のサポート	A-7

A.9.3	OpenSolaris 2008.11 のサポート	A-7
A.10	7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能.....	A-7
A.10.1	AIX プラットフォームのサポート	A-7
A.10.2	Web アプリケーションの自動配備	A-7
A.11	7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能.....	A-8
A.11.1	PKCS11 バイパスのサポート	A-8
A.11.2	サービス管理機能 (SMF) のサポート.....	A-8
A.11.3	非同期アクセラレータキャッシュのサポート.....	A-9
A.11.4	拡張された Web コンテナ.....	A-9
A.11.5	改善された管理エクスペリエンス.....	A-9
A.11.6	Red Hat 4.0 64 ビットのサポート	A-9
A.11.7	NetBeans 6.5 IDE のサポート	A-10
A.12	7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能.....	A-10
A.12.1	Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート.....	A-10
A.12.2	JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 および JavaServer Faces 1.2 のサポート.....	A-11
A.12.3	アクセラレータキャッシュテクノロジー	A-11
A.12.4	FastCGI 設定の管理サポート	A-11
A.12.5	NetBeans サポート	A-11
A.12.6	管理コンソールでの正規表現設定のサポート.....	A-11
A.12.7	パターンマッチングの GUI および CLI サポート	A-12
A.13	7.0 の諸機能および拡張機能.....	A-12
A.13.1	JMX ベースの管理インフラストラクチャー	A-12
A.13.2	再設計された管理サーバーインタフェース.....	A-13
A.13.3	コマンド行インタフェースのサポート	A-13
A.13.4	Sun N1 Service Provisioning System のサポート.....	A-13
A.13.5	統合された設定ファイル	A-14
A.13.6	JNDI のサポート	A-14
A.13.7	Java Database Connectivity および接続プールのサポート.....	A-14
A.13.8	強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート.....	A-14
A.13.9	統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー.....	A-14
A.13.10	軽量セッションレプリケーションのサポート.....	A-15
A.13.11	正規表現による URL のリダイレクションおよびリライティング.....	A-15
A.13.12	広範なリアルタイム監視サポート	A-15
A.13.13	統合された逆プロキシ	A-16
A.13.14	強化されたセキュリティー	A-16
A.13.15	楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート.....	A-17
A.13.16	Oracle Java Studio Enterprise のサポート.....	A-17
A.13.17	ローカリゼーションサポート	A-17

B 以前の Web Server リリースにおいて解決済みの問題

B.1	7.0.12 で解決された問題	B-1
B.2	7.0.11 において解決済みの問題.....	B-3

B.3	7.0.10 で修正された問題.....	B-3
B.4	7.0.9 において解決済みの問題.....	B-4
B.5	7.0 Update 8 において解決済みの問題.....	B-5
B.6	7.0 Update 7 において解決済みの問題.....	B-6
B.7	7.0 Update 6 において解決済みの問題.....	B-7
B.8	7.0 Update 5 において解決済みの問題.....	B-8
B.9	7.0 Update 4 において解決済みの問題.....	B-10
B.10	7.0 Update 3 において解決済みの問題.....	B-12
B.11	7.0 Update 2 において解決済みの問題.....	B-19
B.12	7.0 Update 1 において解決済みの問題.....	B-21

表目次

2-1	管理における既知の問題	2-1
2-2	コアにおける既知の問題	2-8
2-3	FastCGI における既知の問題	2-11
2-4	インストールにおける既知の問題	2-11
2-5	移行およびアップグレードにおける既知の問題	2-13
2-6	サンプルアプリケーションにおける既知の問題	2-16
2-7	検索における既知の問題	2-16
2-8	セキュリティーにおける既知の問題	2-16
2-9	セッションレプリケーションにおける既知の問題	2-17
2-10	Web コンテナにおける既知の問題	2-17
2-11	ローカリゼーションにおける既知の問題	2-18
2-12	Java ES における既知の問題	2-20
3-1	Web Server のドキュメント	3-1

はじめに

『Oracle iPlanet Web Server リリースノート』へようこそ。

Oracle iPlanet Web Server (このドキュメントでは **Web Server** と呼ばれることがあります) は、業界標準に準拠して構築されたマルチプロセス、マルチスレッドの、セキュリティーで保護された **Web** サーバーです。この製品は、どのような規模の企業にも、高い性能、信頼性、スケーラビリティ、および管理性を提供します。

このドキュメントの情報は、次のように構成されています。

- **第 1 章「Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 リリースノート」** では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の機能、拡張機能、および解決された問題、ハードウェアとソフトウェアの要件、さらにインストール、移行、およびアップグレードの注記に関する情報を記載しています。
- **第 2 章「既知の問題点」** では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。
- **第 3 章「製品マニュアル」** では、Web Server ドキュメントの概要を記載しています。また、ドキュメントの修正、拡張機能、および解決された問題について説明します。さらに、ドキュメント、サポート、およびトレーニングリソースの利用方法に関する情報も記載しています。
- **付録 A「以前の Web Server 7.0 リリースの機能および拡張機能」** では、以前にリリースされた製品の諸機能および拡張機能について説明します。
- **付録 B「以前の Web Server リリースにおいて解決済みの問題」** では、以前にリリースされた製品で解決された問題を一覧表示します。

改訂履歴

日付	説明
2011 年 8 月	Oracle iPlanet Web Server 7.0.12 リリース向けの更新
2011 年 2 月	Oracle iPlanet Web Server 7.0.11 リリース向けの更新
2010 年 12 月	Oracle iPlanet Web Server 7.0.10 リリース向けの更新
2010 年 7 月	Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 リリース向けの初期発行

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> の Oracle アクセシビリティプログラム Web サイトにアクセスしてください。

Oracle Support の利用

Oracle の顧客は、My Oracle Support によって電子的なサポートを利用できます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> にアクセスしてください。または、耳が不自由な場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> にアクセスしてください。

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字体	太字体は、操作に関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェース要素か、テキストまたは用語集で定義された用語を示します。
斜体	斜体は、特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース体	モノスペース体は、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 リリースノート

このドキュメントでは、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の新機能と拡張機能、インストールの注意事項、既知の問題、その他の最近確認された問題についての情報を説明します。Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 を使用する前に、このドキュメントをお読みください。

このリリースノートには、次の内容が含まれています。

- 第 1.1 節「Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の新機能と拡張機能」
- 第 1.2 節「Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 で解決された問題」
- 第 1.3 節「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 第 1.4 節「インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点」

1.1 Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の新機能と拡張機能

次の各節では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 の新機能と拡張機能のうち重要なものについて説明します。

- `max-requests-per-connection` と呼ばれる新しいプロパティがこのリリースに導入されました。このプロパティを使用すると、キープアライブ接続の要求の数を少なくして BEAST 攻撃を除去するのに役立ちます。

`max-requests-per-connection` を設定するには、次の例を使用してください。

```
<http-listener>
  <name>ls1</name>
  <port>17005</port>
  <default-virtual-server-name>https-test</default-virtual-server-name>
  <max-requests-per-connection>09</max-requests-per-connection>
  <server-name>pegasus.india.sun.com</server-name> </http-listener>
```

- Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 ではネットワークセキュリティーサービス (NSS) 3.13.1.0 がサポートされます。

以前の Oracle iPlanet Web Server 7.0 リリースの新機能と拡張機能については、[付録 A](#) を参照してください。

1.2 Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 で解決された問題

この節では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 で解決された問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
13079329	RFE: Oracle iPlanet Web Server 7.0 で単一 TCP ソケットにおけるキープアライブ要求を制限する
13355800	キープアライブ要求を制限して、Beast CVE-2011-3389、TLS 1.0 脆弱性を解決するオプションを追加する
13355817	Beast CVE-2011-3389、TLS 1.0 脆弱性
13405070	セキュリティーバージョン 3.13.1 が Web Server 7.0.13 に組み込まれる
13455620	Doc: 新しく追加されたリスナープロパティ <code>max-requests-per-connection</code> のドキュメント化

以前の Oracle iPlanet Web Server 7.0 リリースで解決された問題については、[付録 B](#) を参照してください。

1.3 ハードウェアとソフトウェアの要件

この節では、以下のトピックを含む Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 のハードウェアとソフトウェアの要件について説明します。

- [第 1.3.1 節「製品パッチ」](#)
- [第 1.3.2 節「サポートされるプラットフォーム」](#)
- [第 1.3.3 節「サポートされる JDK」](#)
- [第 1.3.4 節「システム仮想化のサポート」](#)
- [第 1.3.5 節「オペレーティングシステム用パッチ」](#)
- [第 1.3.6 節「サポートされているブラウザ」](#)
- [第 1.3.7 節「非推奨に関する注意点」](#)

1.3.1 製品パッチ

Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 のパッチは、My Oracle Support サイト (<http://support.oracle.com>) で入手可能です。

次の表にパッチの一覧を示します。

プラットフォーム	パッチ ID
AIX POWER32	145848-05
Linux AMD-64	145846-05
Linux x86	145845-05
Windows 32 ビット	145847-05
Solaris SPARC 32 ビットおよび 64 ビット	145843-05
Solaris x86 32 ビット	145844-05

1.3.2 サポートされるプラットフォーム

Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 でサポートされるオペレーティング環境およびハードウェアについての詳しい情報は、次の場所にある『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9+ Certification Matrix』に記載されています。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

1.3.3 サポートされる JDK

リリース 7.0.9 以降では、Oracle iPlanet Web Server は、Java SE 5 ではなく Java SE 6 でのみサポートされます。

サポートされるオペレーティングシステムについては、次のページにリンクがある『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9+ Certification Matrix』のスプレッドシートを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

注： JDK 6 は、サポートされるプラットフォームの表計算ドキュメントに記載されているすべてのオペレーティングシステム (HP-UX および AIX を除く) 用に Oracle iPlanet Web Server (リリース 7.0.9 以降) とともにパッケージ化されています。

1.3.4 システム仮想化のサポート

システム仮想化とは、複数のオペレーティングシステムインスタンスが共有ハードウェア上で独立して動作することを可能にするテクノロジーのことです。機能的には、仮想化環境内でホストされているオペレーティングシステムに配備されたソフトウェアは通常、背後のプラットフォームが仮想化されていることを認識しません。Oracle では、Oracle 製品が適切にサイズ設定および構成された仮想化環境上で、仮想化されていないシステムの場合と同様に機能することを確認するためにテストを実行しています。

仮想化環境での Oracle 製品のサポートについては、次のドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/oracleas-supported-virtualization-089265.html>

1.3.5 オペレーティングシステム用パッチ

適用可能な最新のパッチでオペレーティングシステムを更新します。次の各節では必須パッチを一覧表示します。

1.3.5.1 Solaris のパッチ

Solaris 10 の x86 または SPARC ユーザーは、最新のパッチクラスタをインストールするようにしてください。パッチクラスタは、次の My Oracle Support サイトで入手可能です。

<http://support.oracle.com>

注： 32 ビット Solaris (SPARC) プラットフォームの場合、この節で説明されているパッチに加えて、SUNWlibc および SUNWlibCx パッケージをインストールしてください。

Oracle iPlanet Web Server 7.0 インストーラは、必須パッチがシステムにインストールされているかどうかを判定します。それらのパッチがなかった場合、インストールは失敗します。サポートされたプラットフォーム上に Oracle iPlanet Web Server 7.0 を正常にインストールして、正しく機能させるには、次の各パッチが必要です。

注: <http://sunsolve.sun.com> で入手可能なパッチが古くなっている場合、最新版には最新のバグ修正と製品の機能拡張が含まれているので、それらのパッチの最新版をダウンロードします。

注: システムにインストールされている Solaris のバージョンを確認するには、`/etc/release` ファイルを参照します。

`/etc/release` ファイルには、Solaris のバージョン情報が次の形式で含まれています。

```
Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
Use is subject to license terms.
Assembled 02 May 2006
```

1.3.5.1 Solaris 10 (SPARC および x86) のパッチ

- SPARC
119963-20 — C++ 用の共有ライブラリパッチ
- x86
119964-20 — C++ 用の共有ライブラリパッチ

1.3.5.2 AIX のパッチ

- AIX 5.3: 5300-08-01-0819 以降
- AIX 6.1: 6100-00-04-0815 以降

1.3.6 サポートされているブラウザ

Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 でサポートされている Web ブラウザについての情報は、次の場所にある『Oracle iPlanet Web Server 7.0 Certification Matrix』に記載されています。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

1.3.7 非推奨に関する注意点

動作保証のないオペレーティングシステムのバージョン

iPlanet Web Server 7.0.13 の時点で、次のオペレーティングシステムのバージョンは動作保証の対象外となっています。

- Microsoft Windows XP
- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition、Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Server および Windows 2000 Advanced Server

- Solaris 9 Update 9 SPARC (32 ビットおよび 64 ビット)
- Solaris 9 Update 8 x86 (32 ビット)
- Solaris 8
- OpenSolaris
- HP-UX 11.11
- Novell SUSE Linux Enterprise Server 9
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3

動作保証対象外の Web ブラウザのバージョン

iPlanet Web Server 7.0.13 の時点で、次の Web ブラウザのバージョンは動作保証の対象外となっています。

- Firefox 2
- Microsoft Internet Explorer 6
- Mozilla (すべてのバージョン)

1.4 インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点

この節では、Web Server のインストール、移行、およびアップグレードに関する注意点を示します。これらのトピックの詳細は、『Oracle iPlanet Web Server Installation and Migration Guide』を参照してください。

Oracle iPlanet Web Server リリース 7.0.13 の時点での既知の問題は、[第 2 章「既知の問題点」](#)を参照してください。

1.4.1 インストールの注意事項

以前のバージョンの Web Server が含まれているディレクトリに Web Server をインストールすることはできません。ただし、Web Server を新しいディレクトリにインストールしたあとで既存のインストールを移行することはできます。

Web Server は、Java Enterprise System の一部またはスタンドアロンバージョンとしてインストールできます。

1.4.1.1 スタンドアロンインストール

スタンドアロンインストールでは、NSS や NSPR などの必要な共有コンポーネントはすべて、Web Server インストールファイルとともにパッケージ化されます。

1.4.1.2 Java ES インストール

Web Server を Java ES スイートの一部としてインストールする場合は、Java ES インストーラによって、NSS や NSPR などのすべての共有コンポーネントは別々のパッケージとして、Web Server 固有のバイナリは別々の OS 依存のパッケージとしてインストールされます。

最新の Java ES コンポーネントパッチを <http://support.oracle.com> からダウンロードし、オペレーティングシステムにインストールします。

注： NSS および NSPR の最新のパッチをシステムにインストールしないと、Oracle iPlanet Web Server が正常に起動しません。したがって、Oracle iPlanet Web Server の最新のアップデートをインストールする前に、お使いのシステムに適用可能な NSS パッチの README の内容を確認してください。

1.4.2 移行の注意事項

Web Server 6.0 および 6.1 の設定は移行できます。6.0 よりも前のリリースの Web Server からの直接移行はサポートされていません。Web Server 4.0 などの以前のリリースは、まず Web Server 6.1 に移行し、それから Web Server 7.0 に移行する必要があります。Web Server 4.0 以降から Web Server 6.1 への移行については、次の場所にある『Sun Java System Web Server 6.1 インストールおよび移行ガイド』および『Sun Java System Web Server 6.1 リリースノート』を参照してください。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19857-01/index-ja.html>

Web Server 4.1 から Web Server 7.0 への移行や、Web Server 6.0 のすべてのバージョンから Web Server 7.0 への移行については、『Oracle iPlanet Web Server Installation and Migration Guide』を参照してください。

1.4.3 アップグレードの注意事項

既存の 7.0 インストールに上書きする形で Oracle iPlanet Web Server 7.0 の最新アップデートをインストールすると、インストーラは自動的にアップグレードを実行します。

Oracle iPlanet Web Server 7.0 がすでにインストールされている場合、Oracle iPlanet Web Server の最新アップデートに付属するインストーラで、既存の 7.0 インストールの場所を指定してからアップグレードを実行します。

Web Server 7.0 から Web Server 7.0 Update 5 へのアップグレードの詳細は、『Oracle iPlanet Web Server Installation and Migration Guide』を参照してください。

互換性の問題

1. Web Server 7.0 は JavaServer Faces 1.2 テクノロジをサポートします。JavaServer Faces 1.1 アプリケーションのほとんどは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 と連動するはずですが、アプリケーションを JavaServer Faces 1.2 アプリケーションに移行するときに何らかの互換性の問題が発生する可能性があります。その場合は、アプリケーションに変更を加える必要があります。

変更点については、次の場所にある JavaServer Faces リリースノートを参照してください。

https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html

2. Sun Java System Portal Server 7.1 は Java ES 5 で提供され、Web Server 7.0 Update 1 と互換性がありません。Web Server 7.0 とともに Sun Java System Portal Server 7.1 を配備した場合、Web Server 7.0 だけではなく両方のサーバーをアップグレードする必要があります。

必要な Sun Java System Portal Server 7.1 アップグレードは、Java ES 5 Update 1、または次の場所にあるパッチに含まれています。

<http://support.oracle.com>

- 124301 (SPARC)
- 124302 (x86)
- 124303 (Linux)

Web Server のローカライズされたバージョンを使用している場合は、Portal Server の次のローカリゼーションパッチもインストールしてください。

- 125301 (Solaris SPARC および Solaris x86 ローカリゼーション)
- 125302 (Linux ローカリゼーション)

既知の問題点

この章では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.13 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。

既知の問題は、次の節に分類されます。

- 第 2.1 節「Web Server の管理の問題」
- 第 2.2 節「Web Server のコアの問題」
- 第 2.3 節「Web Server の FastCGI の問題」
- 第 2.4 節「Web Server のインストールの問題」
- 第 2.5 節「Web Server の移行およびアップグレードの問題」
- 第 2.6 節「Web Server のサンプルアプリケーションの問題」
- 第 2.7 節「Web Server の検索の問題」
- 第 2.8 節「Web Server のセキュリティーの問題」
- 第 2.9 節「Web Server のセッションレプリケーションの問題」
- 第 2.10 節「Web Server の Web コンテナの問題」
- 第 2.11 節「Web Server のローカリゼーションの問題」
- 第 2.12 節「Web Server の Sun Java Enterprise System の問題」

2.1 Web Server の管理の問題

表 2-1 に、Web Server の管理における既知の問題の一覧を示します。

表 2-1 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6944873	<p>IBM JDK 6 を使用した AIX で、UID に二重引用符が含まれ、LDAP レルムを使用するように Web Server が設定されている場合に、ユーザー認証が失敗する。</p> <p>この問題は IBM JDK のバグが原因で起こります。</p>
6364924	<p>あるノードを複数の管理サーバーに登録すると、これにより設定の衝突が発生する可能性がある。</p> <p>ある 1 つのノードを、最初の管理サーバーへの登録を取り消すことなしに 2 番目の管理サーバーにも登録できます。ただしこの場合、ノードはどちらの管理サーバーへもアクセスできなくなります。</p> <p>回避方法：</p> <p>登録のたびに管理ノードを再起動します。その管理ノードは、登録先として最後に使用した管理サーバーに対して使用可能になります。</p>

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6379125	<p>wadm コマンドが、ノードへの接続を許可し、証明書を表示したあと、「HTTP 400」エラーをスローする。</p> <p>ある管理ノードが接続を受け取ると、その管理ノードはその接続が管理サーバーからのものであるかをチェックしないまま処理を続行します。これは、不適切なエラーメッセージを出力するだけでなく、さらにパスワードの入力をユーザーに求めます。</p>
6327352	<p>セッションレプリケーションが有効なインスタンスが、クラスタ内のほかのインスタンスが起動されていない場合に正常に起動されない。</p>
6393534	<p>migrate-jks-keycert コマンドを使って Java キーストア keycert を移行したあとで、list-certs コマンドを使って移行された jks keycert を一覧表示しようとする、証明書のニックネームの代わりに CN、org などの情報が表示される。</p>
6407486	<p>wadm set-ssl-prop コマンドを使った SSL プロパティの設定時に、server-cert-nickname プロパティが、サーバー証明書のニックネームだけではなく、すべての証明書のニックネームを受諾してしまう。</p>
6443742	<p>「ノード」オプションに修飾されたドメイン名を指定すると、set-session-replication-prop CLI コマンドが正しく動作しない。</p> <p>回避方法:</p> <p>set-session-replication-prop コマンドで、有効なノード名として list-nodes コマンドの出力を使用します。</p>
6468570	<p>wadm のプロンプトで「yes」を指定すると、CLI が終了する。</p>
6469676	<p>管理証明書の期限が切れたあとで管理サーバーに接続しようすると、不正なエラーメッセージが表示される。</p>
6480600	<p>管理サーバーのディスク容量が不足すると、register-node コマンドによって不正なエラーメッセージが表示される。</p>
6495446	<p>デバイス上にディスク容量がない場合に、wadm によって不正なエラーメッセージ「管理サーバーと通信できません。」がスローされる。</p>
6502800	<p>「--all」オプションと「--instance」オプションを両方指定して migrate-server コマンドを実行しても、エラーにならない。</p> <p>相互に排他的なオプションをユーザーが設定しようとしていることを示す、警告メッセージまたはエラーメッセージを表示すべきです。</p>
6416328	<p>すでに実行中のインスタンスに対して、管理コンソールの「インスタンスを起動」ボタンが有効になる。</p> <p>ボタンの有効化 / 無効化は、インスタンスの状態に基づくべきです。</p>
6418312	<p>wadm によって、重複したユーザープロパティの定義が許可される。</p> <p>重複したユーザープロパティを追加してもエラーメッセージは表示されません。それにもかかわらず、新しいユーザープロパティは作成されません。</p>
6421740	<p>管理コンソールまたは CLI を使って新しいアクセス制御リスト (ACL) ファイルを作成する機能がプロビジョニングされていない。</p>
6423432	<p>Windows 上で既存の設定を使用して、登録済みノードを追加して削除する処理を繰り返すと、検証が失敗する。</p>
6430417	<p>MIME タイプに複数バイト文字を含む MIME 値が許可される。</p>
6442081	<p>「アクセス制御リスト」ページ内のテキストがフォーマットされていない。</p>
6442172	<p>あるユーザーを認証データベースから削除しても、ACE の「選択可能」リストと「選択」リストとの間でそのユーザーを切り替えることができる。</p>
6446162	<p>キーまたはダイジェストファイル認証データベースを削除する前に警告が発行されない。</p>

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6448421	管理インタフェースによって、複数バイトのユーザー ID を持つユーザーがキーファイル認証データベース内に作成できてしまう。
6455827	管理コンソールの「ユーザー」および「グループ」テーブルで結果の全体が単一ページ内に表示される。
6461101	管理コンソールの「自己署名付き証明書を作成」ページにある「証明書を要求」ボタンと「インストール」ボタンのラベル表示を修正する必要がある。
6462057	「選択可能」リストに項目が存在していない場合でも、新しい ACE ウィンドウの「追加」ボタンと「削除」ボタンが有効になる。
6464891	管理コンソールでのサーバーログの表示が 50 行または 2 ページに切り詰められる。
6465382	証明書要求ウィザード内の間違っった国番号のエントリをチェックするための検証機能が存在しない。
6465421	管理コンソールで、仮想サーバー、認証データベース、dav コレクション、イベントの各フィールドに対するテキストフィールドの説明が提供されていない。
6466336	新しい設定を作成するときに、管理コンソールに間違っった JDK バージョンが表示される。 管理コンソールに表示される JDK バージョンは、5.0 u7 ではなく 5.0 u6 です。
6471171	「ノード」->「管理サーバー」->「一般」タブから管理サーバーを再起動すると、スタイルフォーマットが失われる。
6471367	同じブラウザの別のタブ内の管理コンソールにアクセスしようとしても、うまくいかない。
6471792	「ログを表示」で結果が単一ページに表示される。 レコードサイズに選択される検索条件は 25 ログエントリですが、50 を超えるログエントリが存在する場合でも、ログは結果を単一ページ内に表示します。
6472932	トークンパスワードをいったん削除してから「共通操作」->「構成を選択」->「構成を編集」->「証明書」->「PKCS11 トークン」ページでリセットすると、トークン不一致エラーが表示される。
6486037	「仮想サーバー管理」->「コンテンツ処理」->「ドキュメントディレクトリ」->「追加」に、追加ドキュメントディレクトリのパスを選択するための参照オプションを用意すべきである。
6492906	管理コンソールに表示される WebDAV コレクションロックに関するメッセージが、誤解を招く恐れがある。 WebDAV コレクションのタイムアウト値として infinite を指定した場合、「共通操作」->「構成を選択」->「仮想サーバーの選択」->「仮想サーバーを編集」->「WebDAV」->コレクションを選択すると、ページに、メッセージ DOES NOT EXPIRE が表示されます。これが実際に意味するところは、特定の時間が経過してもロックの有効期限が自動的に切れることはない、つまりタイムアウトが無限である、ということです。
6498484	「パスワードの設定」ボタンを使って空のトークンパスワードを設定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6500157	トークンパスワードを編集し、すでに実行中のインスタンス上に設定を配備しようとする、そのインスタンスの再起動が失敗する。
6502287	構成を削除してから「移行」ボタンをクリックすると、管理コンソールに例外が表示される。
6502374	管理コンソールの各ウィザードの「確認」画面には、値を持つフィールドだけが表示されるべきである。
6502793	移行中に、log-dir パスのアクセス権の検証が行われない。

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6266358	管理パスワードに拡張 ASCII 文字が含まれていると、管理 CLI 経由でログインできない。
6361329	エラー応答ファイルの名前を検証すべきである。
6367282	期限切れの証明書で管理サーバーが起動してしまう。wadm は期限の切れた証明書について警告すべきである。
6375505	unregister-node コマンドは、管理ノード上の証明書のクリーンアップも行うべきである。
6408169	WebDAV ロック CLI がクラスタ環境で機能しない。
6408186	同じ管理サーバーに登録されている同一のノード上に管理ノードを複数インストールすることは、許可すべきではない。
6416369	管理ノードの URL にアクセスすると、Page Not Found エラーが発生する。 管理ノードは GUI を持たないため、管理ノードの URL にアクセスすると Page Not Found エラーになります。
6422936	Java の「JVM パス設定」で、クラスパスのプレフィックスとサフィックス、およびネイティブライブラリパスが検証されない。
6423310	server.xml の要素を機能に基づいてグループ化すべきである。
6441773	Windows では、Web アプリケーションを停止する前に、管理サーバーが Web アプリケーションのファイルを物理的に移動する。
6462515	config ディレクトリ内に実行時ファイルが作成された際に管理コンソールに表示される「インスタンス設定が変更されています」というメッセージは、ユーザーの誤解を招く恐れがある。
6462579	ある管理ノードを管理サーバーから登録解除したあとでその管理ノードをアンインストールしても、トラストストアが削除されない。
6468330	JavaHome プロパティに加えた変更は、インスタンスの再起動後には保存されない。
6491749	obj.conf ファイルの破壊を防ぐために、特定のテキストフィールドでより本格的な検証を行う必要がある。 フォーム内のデータの機能的検証のほとんどは、バックエンドで行われます。GUI では、空フィールド、整数値、ASCII 値など、最小限のチェックのみを行います。したがって、解析時に破壊されるようなデータが、GUI によって obj.conf 内に格納されます。
6497213	restart-admin コマンドに続けて stop-admin コマンドを実行すると、管理エラーログに例外がスローされる。
6587832	Windows で、管理コンソールが断続的に起動しなくなる。 回避方法： <ol style="list-style-type: none"> この問題は、Windows 2003 で「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」が有効になっている場合に発生します。 セキュリティー強化機能を無効にせずに管理コンソールにアクセスするには、ブラウザの信頼済みサイトのリストに、サイトを明示的に含めてください。 Internet Explorer のセキュリティー強化の構成を無効にするには、「コントロールパネル」>「プログラムの追加と削除」>「Windows コンポーネントの追加と削除」を選択します。 「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」の隣にあるチェックボックスを選択解除します。 ブラウザを再起動します。

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6746045	<p>config が変更されると、ドキュメントディレクトリ内のファイルの所有権が変更される。</p> <p>ユーザーがディレクトリを作成し、いくつかのファイルを追加してドキュメントディレクトリ内に配備する場合、このディレクトリ内のすべてのファイルの所有権が Web Server をインストールした所有者に変更されます。</p> <p>回避方法:</p> <p>ユーザーディレクトリをドキュメントディレクトリ内に作成すべきではありません。</p>
6750708	<p>Web Server 7.0 管理 CLI でマルチバイト文字の入力が受け付けられない。</p> <p>管理 CLI は、マルチバイトまたは ASCII 以外の文字を含む文字列を受け付けません。たとえば、コマンドとともに ASCII 以外の文字 (Felhasználók) を含む値を入力すると、入力値は次のように文字化けします。</p> <pre>wadm> set-authdb-prop --config=test --authdb=sajit url=ldap://test.example.com:389/ou=Felhaszn??1??k,dc=india,dc=example,d c=com</pre> <p>回避方法:</p> <p>server.xml ファイルを手動で変更する際、ベース DN 値を入力するには複数バイト文字の代わりに URL エンコードシーケンスを入力する必要があります。たとえば、「Felhasználók」の代わりに「Felhaszn%C3%A11%C3%B3k」と入力します。</p>

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6722375	<p>管理サーバーにより、パッチ 125437-14 と 125438-14 が代替ルートに準拠していない場合、管理サーバーにより <code>postpatch</code> スクリプトに関してエラーがスローされる。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 代替ブート環境にパッチを追加してから、代替ブートオペレーティングシステムをブートします。 管理サーバーを起動します。 管理サーバーの起動が失敗し、次のエラーメッセージがスローされます。 <pre>java.lang.NoClassDefFoundError: com/sun/scn/client/comm/SvcTagException</pre> Web サーバーの <code>postpatch</code> スクリプトを編集し、<code>ROOTDIR</code> 値を / または / 空白文字として定義します。ここに、JES ベースパスを指定します。 <pre>bash-3.00# cat postpatch #!/bin/ksh # Copyright (c) 2007 by Sun Microsystems, Inc. # All rights reserved # PATH="/bin:/usr/bin:/sbin:/usr/sbin:\$PATH" export PATH ROOTDIR=/ BASEDIR=`pkgparam -R \$ROOTDIR SUNWwbsvr7 BASEDIR 2>/dev/null` if [-n "\$BASEDIR"] then INSTALL_DIR="\$ROOTDIR\$BASEDIR/SUNWwbsvr7"; PERLDIR="\$INSTALL_DIR/lib/perl" if [-f "\$INSTALL_DIR/lib/wsenv"] then . "\$INSTALL_DIR/lib/wsenv"; WS_IS_JES=1; export WS_IS_JES bash-3.00#</pre> スクリプトを実行してアップグレードを完了します。 <pre>bash-3.00# ksh /tmp/postpatch //opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/perl" -I "//opt/SUNWwbsvr7/lib/perl" -I //opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/lib" -I //opt/SUNWwbsvr7/lib/perl/lib/site_perl" //opt/SUNWwbsvr7/lib/upgradeServer.pl" bash-3.00#</pre> <p>管理サーバーが、エラーの生成なしで起動します。</p>

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6784450	<p>Mozilla Firefox 3.0 を使用して管理サーバーにログインできない。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Solaris 10 プラットフォームの Mozilla Firefox 3.0.4 ブラウザで、「編集」->「設定」->「詳細」->「暗号化」、「証明書を表示 ...」ボタンを押して「サーバー証明書」タブに移動します。 2. 「例外を追加 ...」をクリックします。 3. アクセスする Web サイトのアドレスをテキスト領域に入力して、「許可」をクリックします。
6820164	<p>OpenSolaris 2008.11 の Bug 4788 が Web Server に深刻な影響を及ぼす。</p> <p>OpenSolaris 2008.11 への Web Server の配備中に Web Server の証明書が影響を受け、次の警告が表示されます。</p> <pre>root# /opt/webserver7/admin-server/bin/startserv Oracle iPlanet Web Server 7.0U4 B12/02/2008 02:49 warning: CORE1235: SSL server certificate Admin-Server-Cert is not yet valid. ...</pre> <p>時刻に関する OpenSolaris の Bug 4788 が、この問題の原因となっています。詳細については、http://defect.opensolaris.org/bz/show_bug.cgi?id=4788 を参照してください。</p> <p>回避方法:</p> <p>OpenSolaris 2008.11 の配備後にサーバーを再起動し、サーバーの時刻を修正します。</p>
6842383	<p>Red Hat Enterprise Linux の FastCGI suid 環境</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 上で FastCGI suid 環境を動作させるには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>cd <webserver_install>/plugins</code> 2. <code>chown webservd fastcgi</code> 3. <code>cd fastcgi</code> 4. <code>chmod 4755 Fastcgistub</code> 5. <code>/etc/ld.so.conf</code> に次の行を追加します。 <pre><webserver_install>/lib <webserver_install>/jdk/jre/lib/i365/server</pre> 6. <code>ldconfig</code> を実行します 7. Web Server を再起動します。 <p>注: Web Server がインストールされているファイルシステムと <code>/tmp</code> ディレクトリには、suid プログラムの実行権を付与すべきです。ファイルシステムのマウント時に <code>nosuid</code> オプションを使用しないようにしてください。</p>
6893239	<p>JDK 1.6.0 および JDK 1.5.0 ロガーが正しく機能していません。</p>

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

バグ ID	説明
12303923	<p>CSR を生成している間はほかのページに移動してはいけない</p> <p>Web Server 7 の管理 GUI では、CSR ウィザードウィンドウを使って CSR を生成するときに、メインウィンドウや他のページに移動して別の操作を実行しないでください。たとえば、ノードと CA リスト、CRL、および証明書の詳細です。CSR 生成プロセス中に他のページを参照すると、CSR ウィザードウィンドウで構成が途中で Web インスタンスから管理サーバーに切り替わります。この経緯により、SSL 証明書を Web インスタンスにインストールする際に非公開鍵の問題が発生しなくなる可能性があります。他の操作を行うために管理 GUI のメインウィンドウに移動する場合は、必ずその前に CSR ウィザードウィンドウのすべてのトランザクションを完了するようにしてください。</p>
12721207	<p>管理 GUI によるサービスの作成後に、Bug#12657657 のせいでシステムのリポートを行なってもインスタンスが起動しない</p> <p>インスタンスが正常に起動できるようにするには、これらの手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サービスの作成後にマニフェストファイルをインポートします。svccfg import /var/svc/manifest/network/http.xml 2. svcadm enable <your instance> を実行するか、または管理 GUI でインスタンスの起動ボタンをクリックします。 3. システムをリポートします。/usr/sbin/shutdown -g0 -y -i6 4. インスタンスのステータスを確認します。 <p>手順 2 および 3 は、SMF 構成を完了するために必要です。</p> <p>CLI で作業しているときは、これらの手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. #wadm create-service 2. #svcadm enable svc:/network/http:https-<instance> 3. #svccfg validate /var/svc/manifest/network/http.xml 4. #svccfg import /var/svc/manifest/network/http.xml 5. #/usr/sbin/shutdown -g0 -y -i6 6. インスタンスのステータスを確認します。 <p>手順 3 は、マニフェストファイルを検証するために必要です。</p>

2.2 Web Server のコアの問題

次の表に、Web Server のコアにおける既知の問題の一覧を示します。

表 2-2 コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
6944895	<p>ntrans-j2ee NameTrans が reverse-proxy- / NameTrans の前に置かれているときに、jsessionid が失われる</p> <p>ntrans-j2ee を reverse-proxy- / の前に置くように指定する NameTrans 指令が obj.conf に含まれる場合、jsessionid が失われます。</p> <p>回避方法</p> <p>次のように reverse-proxy- / が ntrans-j2ee より前になるように、NameTrans 指令の順序を変更します。</p> <pre>NameTrans fn="map" from="/" name="reverse-proxy-/" to="http/" NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"</pre>

表 2-2 (続き) コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
6948770	<p>64 ビットの Linux では、32 ビットと 64 ビットの Web Server を区別できない</p> <p>wadm -version コマンドは、Web Server が 32 ビットであるか 64 ビットであるかを示しません。</p> <p>回避方法</p> <p>端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。</p> <pre>file install-dir/lib/webservd</pre>
6955106	<p>Linux で、存在しない jhall.jar リンクのために起動時に例外が発生する</p> <p>起動中、Java は、jhall.jar を存在しないファイルとして指定する FileNotFoundException 例外をスローします。この状況は、sun-javahelp-2.0-fcs がアンインストールされたあとに起こります。アンインストールで、/usr/java/packages 内に jhall.jar へのリンクが残されるからです。</p> <p>回避方法</p> <p>次のように、jhall.jar へのリンクを削除します。</p> <pre>rm -f /usr/java/packages/jhall.jar</pre>
6785490	<p>末尾が「実在する」ファイル名でないすべての URI は、適正な実行に失敗し、「No input file specified」エラーが生成される。</p> <p>PHP ユーザーの場合：</p> <p>Web Server 7.0 Update 4 では、FastCGI および CGI アプリケーション用の環境変数 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME が生成されます。SCRIPT_FILENAME 変数の導入により、仮想 URI (末尾が /index.html ではなく / の URL) にマップされるスクリプト、または Web Server 7.0 の URI 書き換え機能を使用する URL にマップされるスクリプトで、No input file specified PHP エラーが表示されます。影響を受ける PHP バージョンは 5.2.5 - 5.2.9 です。詳細については、http://bugs.php.net/bug.php?id=47042 を参照してください。</p> <p>回避方法：</p> <p>PHP アプリケーションが仮想 URI にマップされている場合は、php.ini ファイルの cgi.fix_pathinfo を 0 に設定すべきです。Drupal、Wordpress、Joomla など、人気のある多くの PHP アプリケーションでこの設定を行う必要があります。</p> <p>ただし、この設定によって、/foobar.php/baz/ などの path-info に依存する PHP アプリケーションで No input file specified PHP エラーが返されます。path-info に依存する PHP アプリケーションでは、cgi.fix_pathinfo を無効にすべきではありません。</p>
6296993	<p>ある obj.conf 指令の実行時にエラーが発生した場合、問題の指令が見つかった場所のファイル名と行番号がログに記録されない。</p>
6365160	<p>データ型の制約違反のために server.xml のスキーマ検証が失敗したときに、要素の一連の有効な値を説明しないエラーメッセージが表示される。</p>
6378940	<p>どの HTTP ヘッダー解析エラーにも、クライアント IP とエラーの説明が記録されない。</p>
6470552	<p>set-variable SAF が定義済みの変数を設定できなかった。</p>
6489220	<p>サーバーが、\$\$ 文字定数を含む非補間文字列を挿入文字列として扱う。</p> <p>あるパラメータ値に \$\$ escape が含まれている場合、サーバーは、そのパラメータブロックの PblockModel を構築します。\$\$ は定数なので、これは不要です。</p>

表 2-2 (続き) コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
6977268	HTTP ヘッダーフィールド名の太文字と小文字が区別されず、すべての HTTP ヘッダーフィールド名が小文字になる
6996370	<p>obj.conf 内の <If> fn="rewrite" <Else> が有効なときに、WebServer 7.0 の起動エラーが発生する</p> <p>obj.conf 内の <If> ルールの例 :</p> <pre><If \$path eq "/known.html"> </If> <Else> NameTrans fn="rewrite" path="/unknown.html" </Else></pre> <p>obj.conf に追加された <If> ルールは、サーバーの動作と干渉します。サブレットコンテナまたは JSP コンテナが Web アプリケーションの web.xml ファイルを解析しようとする、起動エラーが発生します。ファイルシステムのリソースをシークするときに、obj.conf 指令が処理されます (代替ドキュメントディレクトリなどを選択するため)。</p> <p>obj.conf に追加されたルールは known.html または unknown.html に対するすべての要求を変更するため、サブレットコンテナは、web.xml の代わりに unknown.html を web.xml ファイルとして解析しようとします。その結果、エラーが発生します。また、web.xml が存在しない場合でも、obj.conf に追加された <If> ルールは unknown.html に対する要求を変更します。</p> <p>解決方法 :</p> <p>obj.conf の <If> ルールの前に <If not internal and not restarted> を付けます。</p> <p>例 :</p> <pre><If not internal and not restarted> <If \$path eq "/known.html"> </If> <Else> NameTrans fn="rewrite" path="/unknown.html" </Else> </If></pre>
12354092	<p>set-cookies ヘッダーに関する問題。</p> <p>回避方法 :</p> <p>obj.conf ファイルに条件文を追加します。</p> <pre><If defined \$srvhdrs{'set-cookie'} and \$srvhdrs{'set-cookie'} =~ "(.*)"; HttpOnly"> Output fn="set-variable" \$srvhdrs{'set-cookie'}="\$1" </If></pre>

2.3 Web Server の FastCGI の問題

次の表は、FastCGI における既知の問題を一覧したものです。

表 2-3 FastCGI における既知の問題

バグ ID	説明
6485248	<p><code>reuse-connection</code> が <code>true</code> に設定されていると、<code>fastcgi</code> スタブがすべてのプロセスを適切に閉じない。</p> <p>FastCGI プラグインとして PHP と連携するように Web Server 7.0 を設定し、<code>reuse-connection=true</code> を設定します。サーバーを停止または再設定するときに、<code>fastcgi()</code> プロセスとその子プロセスが取り残されて適切に終了されません。</p>

2.4 Web Server のインストールの問題

次の表に、Web Server のインストールにおける既知の問題の一覧を示します。

表 2-4 インストールにおける既知の問題

バグ ID	説明
6948019	<p>Unix で、インストールパスのいずれかのディレクトリに対する適切な実行権限がない場合、サーバーの起動が失敗する</p> <p>インストールパスのいずれかのディレクトリで、<code>webserverd</code> ユーザーに実行権限が与えられない場合、Web Server インスタンスは起動に失敗します。</p> <p>回避方法</p> <p>必要に応じて <code>chmod o+x directory</code> を使用して、インストールパス内のディレクトリに対する実行権限を変更します。</p>
6414539	<p>管理ノードをアンインストールしても、そのノードが管理サーバーのノードから削除されない。</p> <p>管理ノードをインストールし、それを「ノード」タブで管理サーバーに登録すると、「ノード」タブ内にその管理ノードが表示されます。管理ノードをアンインストールしたときに、その管理ノードのエントリが「ノード」タブ内に残ります。</p>
6287206	<p>ネットワーク上の共有フォルダから設定が起動されると、インストールが実行できない。</p> <p>Windows プラットフォームでは、別のマシン上の共有ネットワークフォルダからインストーラ <code>setup.exe</code> を起動すると、製品をインストールできません。</p>
6311607	<p>Windows で、管理パスワードが 8 文字以上の場合にインストーラが CLI モードでクラッシュする。</p> <p>管理ユーザーパスワードが 8 文字以上である場合、管理ポート、Web Server ポート、または管理ユーザー ID への入力の中に 1 つでも無効なものがあると、インストーラがクラッシュします。</p> <p>回避方法:</p> <p>コマンド行インタフェース (CLI) を使って Web Server 7.0 を Windows プラットフォーム上にインストールする場合、管理パスワードを 8 文字未満 (< 8) に設定する必要があります。</p>
6408072	<p>Windows の場合、「プログラム」フォルダ内のオブジェクトに対するアイコンが必要である。</p> <p>Windows 上の「Web Server 7.0」フォルダ内のオブジェクトは、デフォルトの Windows プログラムアイコンで作成され、Sun のプログラムであることを示す独自のアイコンを備えていません。</p>
6492144	<p>パスワード入力時に CLI インストーラが <code>Ctrl + C</code> キーの入力を処理しない。</p> <p>インストーラが <code>ctrl+c</code> キーの入力を受け付けられないため、端末が使用不能になります。</p>

表 2-4 (続き) インストールにおける既知の問題

バグ ID	説明
6710925	<p>RH5.1 ユーザーが GUI モードで Web Server 7.0 Update 3 をインストールできない。</p> <p>回避方法</p> <p>この失敗を回避するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CLI ベースのインストーラを使用します。 2. <code>xdpyinfo</code> コマンドへのシンボリックリンクを作成します。次に例を示します。 <pre>[root@server bin]# ln -s /usr/bin/xdpyinfo /usr/X11R6/bin/xdpyinfo</pre>
6717123	<p>「登録オプション」パネルの UI が正しく表示されない場合がある</p> <p>インストーラの「登録オプション」GUI が正しく表示されない場合があります。</p> <p>回避方法:</p> <p>インストーラのウィンドウのサイズを変更します。</p>
12306018	<p>Web Server 7 のデフォルトの構成で .exe ファイルを正しくダウンロードできない。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インスタンス構成に移動して、<code>mime.types</code> ファイルを編集します。 編集前の <code>mime.types</code> ファイルは次のように表示されます。 <pre>type=application/octet-stream exts=bin type=magnus-internal/cgi exts=cgi,exe,bat</pre> 編集後の <code>mime.types</code> ファイルは次のように表示されます。 <pre>type=application/octet-stream exts=bin,exe type=magnus-internal/cgi exts=cgi,bat</pre> 2. <code>wadm pull-config</code> または管理 GUI を使用して、手動による変更を管理サーバーに同期させます。 3. Web Server を再起動し、<code>.exe</code> ファイルタイプでダウンロードを行います。

2.5 Web Server の移行およびアップグレードの問題

次の表に、Web Server の移行およびアップグレード領域における既知の問題の一覧を示します。

表 2-5 移行およびアップグレードにおける既知の問題

バグ ID	説明
6932016	<p>組み込み CA ルートでの Verisign EV 証明書チェーンの問題。</p> <p>Verisign EV の 2048 ビット SSL Web Server 証明書を使用している場合は、Web Server 7.0 の以前のバージョンから Web Server 7.0 Update 8 以降にアップグレードしたあと、一部の古いブラウザで「Certificate Authority Not Trusted」という警告が表示されることがあります。</p> <p>回避方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web Server を停止します。 2. Web Server インスタンスの config ディレクトリに変更します。 <pre>cd instance-dir/config</pre> 3. Root Certs モジュールを一覧表示します。 <pre>modutil -list -nocertdb -dbdir .</pre> 4. Root Certs モジュールを削除します。 <pre>modutil -dbdir . -delete 'Root Certs'</pre> 5. Root Certs モジュールが削除されたことを確認します。 <pre>modutil -list -nocertdb -dbdir .</pre> 6. Web Server を起動します。 <p>注: この回避方法は、Verisign EV の 2048 ビット SSL Web Server 証明書を使用するように設計されている任意の新しい設定にも適用できます。</p>
6914893	<p>6.0 jvm12.conf ファイルのプロパティーの中に、7.0 server.xml ファイルに移行されないプロパティーがある</p> <p>Sun iPlanet Web Server 6.0 から Oracle iPlanet Web Server 7.0 に移行する場合、フォームの 6.0 jvm12.conf ファイルのプロパティーが、<code>name = value 7.0 server.xml</code> ファイルに、JVM オプションとして移行されません。</p> <p>次に一覧表示されるプロパティーのみが移行されます。「jvm12.conf Parameter Reference」(『iPlanet Web Server 6.0, Enterprise Edition プログラマーズサーブレットガイド』にあります)</p> <p>回避方法</p> <p>これらのプロパティーの値を手動で移行します。これを行うには、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Configuration File Reference』の「Elements in server.xml」を使用して、移行する jvm12.conf プロパティーに対応する server.xml の要素またはサブ要素を検索し、その値を server.xml ファイルに転送します。</p>
6407877	<p>installed.pkg ファイルが見つからない場合、Web Server 6.0 から 7.0 に移行するとき不正な移行が行われる。</p> <p>Web Server 6.0 から 7.0 に移行するとき installed.pkg ファイルが見つからないと、Web Server は、magnus.conf ファイル内の NSServlet エントリを不正に移行します。</p>
6490124	<p>6.x -> 7.0: 移行済みのスケジュールされたイベントが依然として server.xml ファイル内の 6.x のパスを指している。</p>

表 2-5 (続き) 移行およびアップグレードにおける既知の問題

バグ ID	説明
6502529	<p>6.1->7.0: 移行時に、search-collection-dir 用に設定された相対パス設定が処理されない。</p> <p>インスタンス移行時に、検索コレクションのコピー先になるターゲットパスの相対パスを指定しても、config-store に対して検索コレクションディレクトリが作成されず。インスタンスをインスタンス化するときに、検索コレクションが適切に移行されずにインデックスが作成されます。</p>
6502769	<p>6.x->7.0: 移行時に obj.conf ファイル内のすべての「ドキュメントルート」の NameTrans が無視される。</p>
6498806	<p>Windows では、Web Server の管理コンソールは移行の間、適切な警告をユーザーに与えない。</p> <p>管理サーバーは、選択された新しい設定またはサービス名が Windows 上にすでに存在するかどうかを検出しないため、別の設定名を選択するようユーザーに適切に警告したり、別の設定名をデフォルトとして提案したりしません。</p>
6500509	<p>Web Server 7.0 の移行ツールは、ルート証明書がインストールされていると Web Server 6.1 から正常に移行することができない。</p>
6747123	<p>Web Server 7.0 Update 2 リリースで、要求処理動作が変更した。</p> <p>Web Server 7.0 Update 2 RPP を使用しているときには、この変更の影響は現れません。</p> <p>Web Server の要求処理エンジンは、Web Server での重要なエラーを修正するために変更されており、これによって Web Server がサーバー内の obj.conf ファイルにあるオブジェクトおよび指令を処理する順序が変更されています。この修正によって、要求の処理中に次の規則の適用が保証されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 要求に適用されるすべての ppath オブジェクトが評価される。 ■ 2つのオブジェクトが競合する場合、要求に適用される名前付きオブジェクトがあれば ppath オブジェクトよりも優先される。 <p>obj.conf ファイルに ppath オブジェクトが含まれている場合、obj.conf ファイルを変更する必要があるかどうかを確認するために評価する。このように要求処理の動作が変更された結果として、以前のバージョンの Web Server を Web Server 7.0 Update 2 以降にアップグレードすると、この表の後に説明するように、obj.conf ファイルを少し変更しなければならない場合があります。</p>

Web Server 7.0 Update 2 での要求処理動作の変更に対する対処

要求処理の動作が変更された結果として、以前のバージョンの Web Server を Web Server 7.0 Update 2 以降にアップグレードすると、次のように obj.conf ファイルを少し変更しなければならない場合があります。

1. IF 指令を使用する

次の例では、ntrans-j2ee NameTrans SAF が JSP 拡張子に適用され、j2ee という名前のオブジェクトが評価されるため、明示的な JSP 拡張子が要求 URI に見つからないときは、ppath オブジェクトに含まれる指令が起動されません。obj.conf ファイルへの変更はありませんが、要求を WebLogic サーバーに転送するためにここで使用される WebLogic プロキシサービスは起動されなくなりました。その結果、Web Server は要求を WebLogic プロキシではなく独自の Web コンテナに送信するため、要求が失敗します。

obj.conf ファイルのデフォルトオブジェクトで、問題のある URI を含む ntrans-j2ee サービスに条件文を次のように追加します。

```
<Object name="default">
AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*" ssl-unclean-shutdown="true"
#
```

```
#Adding <IF...> and </IF> bracketing to compensate
  for change in ppath processing
#
<IF $uri !~ ".*WebApp/.*" >
NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"
PathCheck fn="find-index-j2ee"
ObjectType fn="type-j2ee"
Error fn="error-j2ee"
</IF>
....
....
<Object name="j2ee">
Service fn="service-j2ee" method="*"
</Object>

<Object ppath="*/examplesWebApp/*" >
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7001
</Object>

<Object ppath="*/ejemploWebApp/*">
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com
  WebLogicPort=7002
</Object>
</Object>
```

これにより、URI が一致しないときにのみ、ntrans-j2ee を実行できます。

2. assign-name NameTrans を使用する

単純なシナリオでは、デフォルトオブジェクトで assign-name を使用して、ppath オブジェクトを name オブジェクトに変更できます。これにより、assign-name を ntrans j2ee よりも先に実行できます。

```
<Object name="default">
NameTrans fn="assign-name" from="/examplesWebApp/*" name="examples_proxy"
NameTrans fn="assign-name" from="/ejemploWebApp/*" name="ejemplo_proxy"
NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee"
....
....
</Object>

<Object name="j2ee">
Service fn="service-j2ee" method="*"
</Object>

<Object name="examples proxy" >
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7001
</Object>

<Object name="ejemplo proxy">
Service fn=wl_proxy WebLogicHost=jwsse10.red.iplanet.com WebLogicPort=7002
</Object>
```

3. 無効化する

Web Server で Java Web コンテナのサポートをオフにすると、JSP が WebLogic プロキシ機能で処理されるようになります。ただし、プロキシ階層で Java コンテンツをホストする予定がない場合にのみ、これを行うことをお勧めします。

2.6 Web Server のサンプルアプリケーションの問題

次の表に、Web Server のサンプルアプリケーションにおける既知の問題の一覧を示します。

表 2-6 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
6472796	<p><code>sendmail.jsp</code> によって示されている、<code>javamail</code> サンプルアプリケーションの <code>resource.host</code> を指定するために編集するファイルが間違っている。</p> <p>回避方法</p> <p><code>javamail.resource.host</code> を設定するには、<code>javamail.build.properties</code> を編集します。 <code>install-dir/samples/java/webapps/javamail/src/docroot/sendmail.jsp</code> 内で指定された <code>build.xml</code> ではありません。</p>

2.7 Web Server の検索の問題

次の表に、Web Server の検索機能における既知の問題の一覧を示します。

表 2-7 検索における既知の問題

バグ ID	説明
6943388	<p>ドキュメント数が増えると、検索コレクションの構築がハングアップする</p> <p>多数のドキュメントの検索コレクションを構築すると、プロセスがハングアップします。</p> <p>この状況は、各ドキュメントの処理が新しいスレッドで行われ、それぞれがヒープ空間を消費するために発生します。</p> <p>回避方法</p> <p><code>-Xmx</code> オプションを使用して、Java ヒープサイズを増やします。たとえば、128MB (<code>-Xmx128m</code>) から 512MB (<code>-Xmx512m</code>) にヒープサイズを増やすことができます。</p>
6701532	<p>検索エンジンが、パスワードで保護された PDF ドキュメントのインデックス作成に失敗する</p> <p>PDF ドキュメントがパスワードで保護され暗号化されている場合、検索エンジンがそのドキュメントのメタデータのインデックス作成に失敗します。その結果、要求された検索が失敗します。</p>

2.8 Web Server のセキュリティーの問題

次の表に、Web Server のセキュリティー領域における既知の問題の一覧を示します。

表 2-8 セキュリティーにおける既知の問題

バグ ID	説明
6376901	<p>同一ディレクトリ内のリソースに関する基本ベースおよびダイジェストベース ACL のサポートに制限がある。</p> <p>サーバーがダイジェストベースの ACL と基本ベースの ACL をドキュメントツリー内の異なる部分で使用する場合、その両方を同一ディレクトリ内の異なるファイルやリソースで同時に使用しようとしても、失敗します。</p>

表 2-8 (続き) セキュリティーにおける既知の問題

バグ ID	説明
6431287	<p>TLS_ECDH_RSA_* に RSA キーで署名されたサーバー証明書が必要である。</p> <p>書式 TLS_ECDH_RSA_* の暗号化方式群を使用するには、サーバーが ECC キーペアと、RSA キーで署名された証明書を持っている必要があります。ここでは、自己署名付き証明書でこれらの暗号化方式群を使用することが除外されている点に注意してください。この要件はこれらの暗号化方式群にとって特有なものであり、バグではありません。サーバーはこれらの暗号化方式群に関連する間違っただ設定を検出して警告を発するべきですが、現時点ではそのようになっていません。</p>

2.9 Web Server のセッションレプリケーションの問題

次の表に、Web Server 7.0 のセッションレプリケーション機能における既知の問題の一覧を示します。

表 2-9 セッションレプリケーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
6324321	<p>リモートでエラーが発生したときに、詳しいエラーメッセージが表示されない。</p> <p>リモートで例外が発生すると、リモートインスタンスのエラーログ内にエラーメッセージが記録されます。ところが、ローカルインスタンスは現時点では、ユーザーがどのエラーログを参照する必要があるかが明確に示されていない、汎用的なリモート例外を表示します。</p>
6396820	<p>クライアントの Cookie が無効になっていると、セッションレプリケーションが正しくフェイルオーバーされない。</p>
6406176	<p>有効になっている場合、セッションレプリケーションは、デフォルトのセッションマネージャーになるべきである。</p> <p>管理コンソールまたは CLI を使用するか server.xml ファイルを編集してセッションレプリケーションを有効にしても、セッションレプリケーションは実際には有効になっていません。代わりに、sun-web.xml を手動で編集する必要があります。</p>
6800993	<p>async クラスタが使用できないために、わずかなデータ損失が発生する。</p> <p>HTTP セッションでわずかなデータ損失が発生するケースが確認されています。セッションフェイルオーバーで async パラメータを使用して非同期実装すると、この問題が解決する場合があります。</p>

2.10 Web Server の Web コンテナの問題

次の表に、Web Server の Web コンテナにおける既知の問題の一覧を示します。

表 2-10 Web コンテナにおける既知の問題

バグ ID	説明
4858178	<p>Web コンテナが標準エラーに書き込む。</p>
6349517	<p>1 を超える MaxProcs モードでの Web アプリケーションのセッション統計情報が正しくない。</p> <p>Web Server はマルチプロセスモードで実行されます。プロセスの最大数を設定するには、magnus.conf 内の MaxProcs 設定変数を使用します。MaxProcs の値が 1 より大きい値に設定されていると、Web Server は、mmap ベースのセッションマネージャーを使って異なる JVM 間でセッションを共有できるようにします。複数のプロセスから統計情報を収集する間、Web アプリケーションの MBean は、個々の MBean にセッションを提供します。個々の MBean の Web アプリケーションセッション統計情報を参照しても、実際のセッション数を確認することはできません。</p>

表 2-10 (続き) Web コンテナにおける既知の問題

バグ ID	説明
6394715	<p>Web コンテナが、無効化された Web アプリケーションの MBean オブジェクトを削除する。</p> <p>server.xml ファイル内の <enabled> 要素を false に設定することで Web アプリケーションを無効にすると、Web コンテナはその Web アプリケーションの MBean を削除します。したがって、そのアプリケーションは閉じた Web アプリケーションまたは削除済みの Web アプリケーションとして扱われます。無効化されたオブジェクトは削除されるため、統計情報も失われます。</p>
6419070	<p>JNDI リソースの作成が成功したときに、詳細度のもっとも高いログレベルでもエラーログに情報が記録されない。</p>
6422200	<p>com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp.DocumentBuilderImpl.parse が 1 バイトの読み取りを行う。</p> <p>server.xml ファイルを読み取る際に、XML のバージョン番号とエンコーディングを含む先頭行は、一度に 1 バイトずつ読み取られます。</p>
6440064	<p>サーブレットコンテナが、仮想サーバーごとにスレッドを 1 つずつ作成する。</p>
6501184	<p>REQ_EXIT によって javax.servlet.ServletException が発生する。</p>

2.11 Web Server のローカリゼーションの問題

次の表に、Web Server のローカライズされたバージョンにおける既知の問題の一覧を示します。

表 2-11 ローカリゼーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
6543814	<p>複数バイト文字列には検索フィルタ「*」が正常に機能しない。</p>
5046634	<p>Web Server 7.0 には use-responseCT-for-headers に相当する機能がない。</p> <p>応答ヘッダーエンコードは、web-app/sun-web.xml ファイルの構成パラメータ use-responseCT-for-headers の値を yes、true、on のいずれかに設定すると、web-app レベルで有効になります。</p> <p>たとえば、応答ヘッダーエンコードを次のように設定します。</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"/> <property name="use-responseCT-for-headers" value="true" /> <session-config> <session-manager/> </session-config> <jsp-config/> </sun-web-app></pre>
6716537	<p>ソケット作成のエラーメッセージがローカライズされていない。</p>

表 2-11 (続き) ローカライゼーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
6775946	<p>125437-15 が日本語ロケールにインストールされている場合に失敗する。</p> <p>patchrm 125437-15 を日本語ロケールにインストールすると、失敗して次のエラーがスローされます。</p> <pre>WARNING: patchrm returned <7></pre> <p>ログファイルへの出力を次に示します。</p> <pre>/var/tmp/dstreAAAW0a4wU/SUNWwbsvr7x/install/checkinstall: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 4: '(' unexpected pkgadd: ERROR: checkinstall script did not complete successfully Installation of <SUNWwbsvr7x> partially failed.</pre> <p>この問題は、次のプラットフォームで発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC プラットフォーム - パッチ 119254-40 - 119254-47 が適用済みで、かつ 119254-48 が未適用の Solaris 10 ■ x86 - パッチ 119255-40 - 119255-47 が適用済みで、かつ 119255-48 が未適用の Solaris 10 <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前に挙げた、影響を受けるパッチをインストールしないようにします。これらのパッチがすでにインストールされている場合は、patchrm(1M) コマンドを使ってそれらを削除することで、安全なパッチレベルに戻すことができます。 2. 日本語ロケールでパッチをインストールしないようにします。 <p>詳細については、 http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-103104-1 を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. Solaris 10 SPARC プラットフォームにパッチ 119254-48 以降を適用し、Solaris 10 x86 プラットフォームにパッチ 119255-48 以降を適用します。

2.12 Web Server の Sun Java Enterprise System の問題

次の表に、Sun Java Enterprise System (Java ES) における既知の問題の一覧を示します。

表 2-12 Java ES における既知の問題

バグ ID	説明
6432106	<p>Web Server のアップグレード後、Sun Java System Portal Server の検索で例外がスローされる。</p> <p>Web Server を Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードすると、Portal Server の検索機能が例外をスローします。</p> <p>回避方法</p> <p>注: 既存の libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ライブラリファイルを、Web Server の非公開ディレクトリの外部のどこか適切な場所に移動します。Portal Server ライブラリを適切な場所に格納したら、そのパスを次のコマンドの <code><libdb-3.3.so path></code>; <code><libdb_java-3.3.so path></code> に指定する必要があります。</p> <p>Solaris プラットフォームで、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ファイルを、Web Server 6.1 の lib ディレクトリから適切な場所にコピーします。 <p>注: HP-UX の場合、ファイルは libdb-3.3.sl と libdb_java-3.3.sl になります。Windows の場合、ファイルは libdb-3.3.dll と libdb_java-3.3.dll です。</p> <p>注意: Web Server 7.0 の非公開ディレクトリ (lib ディレクトリなど) にライブラリファイルをコピーしないでください。</p> /portal_libraries という名前でディレクトリを作成します (mkdir)。ライブラリファイル libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so を /portal_libraries にコピーします。 wadm コマンドを使用して、ライブラリファイルの場所を Web Server に通知します。 次の管理 CLI コマンドを入力して、現在のネイティブなライブラリパス設定を取得します。 <pre>get-jvm-prop -user=admin --config=hostname native-library-path-prefix</pre> <p>出力を保存します。</p> 次の管理 CLI コマンドを入力して、コピーした libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so のパスを、既存のネイティブなライブラリパスに追加します。 <pre>set-jvm-prop --config=hostname native-library-path-prefix=<existing native library-path>:</portal-libraries-path></pre> <p>ここで、<i>portal-libraries-path</i> は、手順 1 で libdb-3.3.so および libdb_java-3.3.so ファイルをコピーした場所です。</p> <p>get-jvm-prop コマンドを実行しても結果または出力が得られない場合は、コマンドプロンプトで <i>native-library-path-prefix</i> を次のように設定します。</p> <pre>native-library-path-prefix=</portal-libraries-path></pre> 注: Windows プラットフォームの場合は、次のように「;」を native-library-path-prefix パラメータの区切り文字として使用します。 <pre>native-library-path-prefix=<existing native library path>;<portal-libraries-path></pre> <p>Windows 以外のプラットフォームの場合は、次のように「:」を native-library-path-prefix パラメータの区切り文字として使用します。</p> <pre>native-library-path-prefix=<existing native library path>:<portal-libraries-path></pre> 次のコマンドを入力して、変更後の構成を配備します。 <pre>deploy-config [--user=admin-user] config-name</pre>

表 2-12 (続き) Java ES における既知の問題

バグ ID	説明
6504178	<p>移行ログが「root is not a valid user」という間違っただメッセージを Java ES 5 上で報告する。</p> <p>UNIX プラットフォームで Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードしているときに、移行ログファイルが WARNING: "root is not a valid user" と報告します。そのホストでは「root」ユーザーは有効なので、このメッセージは間違っています。</p>
6453037	<p>Web Server の起動時に、多数の警告メッセージや情報メッセージが、ログファイルに送られずに標準出力に表示される。</p>

製品マニュアル

Oracle iPlanet Web Server 7.0 のドキュメントは次の形式で提供されます。

- マニュアル: Oracle iPlanet Web Server 7.0 のマニュアルおよびリリースノートは、HTML 形式および PDF 形式で参照できます。
- オンラインヘルプ: コンテキストヘルプを表示するには、製品のグラフィカルインタフェースにある「ヘルプ」ボタンをクリックします。

Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 は、7.0 のドキュメントセット全体が更新された最新のリリースです。7.0.9 リリースのあとで Oracle iPlanet Web Server 7.0 のドキュメントに加えられた更新と修正は、このリリースノートに記載されています。第 3.2 節「ドキュメントの訂正、内容の追加、および解決された問題」を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- 第 3.1 節「Web Server のドキュメントセット」
- 第 3.2 節「ドキュメントの訂正、内容の追加、および解決された問題」
- 第 3.3 節「ドキュメント、サポート、およびトレーニング」

3.1 Web Server のドキュメントセット

Web Server のドキュメントセットでは、Web Server をインストールおよび管理する方法について説明しています。

Web Server への導入としては、表 3-1 に示されている順序でドキュメントを参照してください。

表 3-1 Web Server のドキュメント

ドキュメントのタイトル	内容
『Oracle iPlanet Web Server リリースノート』(このドキュメント)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアと文書に関する最新情報 ■ サポートされているプラットフォームと、Web Server をインストールするためのパッチ要件
『Oracle iPlanet Web Server Installation and Migration Guide』	<p>以下のインストールおよび移行作業の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server とその各種コンポーネントのインストール ■ Sun ONE Web Server 6.0 または Sun Java System Web Server 6.1 から Oracle iPlanet Web Server 7.0 へのデータの移行

表 3-1 (続き) Web Server のドキュメント

ドキュメントのタイトル	内容
『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』	以下の管理作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ サーバーインスタンスの使用 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバー保護のためのアクセス制御の設定 ■ Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) セキュリティ機能の使用 ■ アプリケーションの配備 ■ 仮想サーバーの管理 ■ パフォーマンス要件に合わせたサーバー作業負荷の定義およびシステムのサイジング ■ サーバードキュメントのコンテンツと属性の検索、およびテキスト検索インタフェースの作成 ■ コンテンツ圧縮のためのサーバー設定 ■ WebDAV を使用した Web 発行およびコンテンツオーサリングのためのサーバー設定
『Oracle iPlanet Web Server Troubleshooting Guide』	以下を実行するためのプログラミングテクノロジーおよび API の使用 <ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server の拡張と変更 ■ クライアント要求に応答したコンテンツの動的生成とサーバーのコンテンツの変更
『Oracle iPlanet Web Server NSAPI Developer's Guide』	カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) プラグインの作成
『Oracle iPlanet Web Server Developer's Guide for Java Web Applications』	Web Server での Java サーブレットおよび JavaServer Pages (JSP) テクノロジーの実装
『Oracle iPlanet Web Server Administrator's Configuration File Reference』	設定ファイルの編集
『Oracle iPlanet Web Server パフォーマンスのチューニング、サイジング、およびスケールリング』	パフォーマンスを最適化するための Web Server のチューニング
『Oracle iPlanet Web Server Command-Line Reference』	CLI によって Web Server を管理できる管理コマンド

3.2 ドキュメントの訂正、内容の追加、および解決された問題

次の表に、Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 ドキュメントの訂正、追加された内容、および解決された問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6932016	新規の組み込み CA ルートで Verisign EV 証明書チェーンの問題に対処する方法。 参照先 第 2.5 節「Web Server の移行およびアップグレードの問題」

問題 ID	説明
6965828	再起動後に要求を受け入れる前にクラスタ化インスタンスを同期する必要があります。 参照先 第 3.2.4 節「セッション複製のための Web アプリケーションの設定に関する追加情報」
6968560	証明書チェーンのアップグレード方法を記述します。 参照先 第 3.2.1 節「証明書チェーンの更新」
6971148	SELinux で JDK ライブラリのセキュリティーコンテキストを変更します。 参照先 付録 B.4「7.0.9 において解決済みの問題」
6977258	WS7.0 リリースノートの CR6611067 は正しくありません。 参照先 付録 B.4「7.0.9 において解決済みの問題」
6977268	すべての要求ヘッダー名は小文字で返されます。 参照先 第 2.2 節「Web Server のコアの問題」
6989578	7.0 リリースノートで、システムから SUNWlxml パッケージを削除するための参照が正しくありません。 参照先 第 1.3.5.1.1 節「Solaris 10 (SPARC および x86) のパッチ」
6989830	「Oracle Fusion Middleware でサポートされている仮想化テクノロジー」へのリンクが正しくありません。 参照先 第 1.3.4 節「システム仮想化のサポート」
6991930	GDD ドキュメントの「ハングアップまたは応答不能」の章に 2 か所の誤字があります。 参照先 第 3.2.2 節「Web Server プロセスのハングアップまたは応答不能時にデバッグデータを収集する手順の訂正」
6993379	Java ES のインストールおよびアップグレードの注意事項に訂正が必要です。 参照先 第 1.4 節「インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点」
6994415	Red Hat Linux では %duration% はミリ秒単位で計測されます (ドキュメントにはマイクロ秒と記載されています)。 参照先 第 3.2.3 節「%duration% ログパラメータで使用される時間単位についての記述の明確化」
6993705	http-client-config の表の一覧にタイムアウトパラメータの説明がありません。 参照先 第 3.2.5 節「http-client-config の timeout パラメータについての情報」
6996370	obj.conf に有効な <If> fn="rewrite" <Else> が含まれていると Web Server 7.0 の起動時エラーが発生します。 参照先 第 2.2 節「Web Server のコアの問題」
7022621	WS7 でサポートされている JDK のバージョン 参照先 第 1.3.3 節「サポートされる JDK」

3.2.1 証明書チェーンの更新

『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 管理者ガイド』の「証明書チェーンのインストール」の節の情報は、証明書チェーンを更新するときにも該当します。したがって、「証明書チェーンのインストールまたは更新」というのが本来正しい節タイトルです。

3.2.2 Web Server プロセスのハングアップまたは応答不能時にデバッグデータを収集する手順の訂正

テクニカルノート『Sun Java System Web Server の Sun によるデバッグデータ収集』の「Web Server プロセスのハングアップまたは応答不能時にデバッグデータを収集するには」の手順説明で、手順 5 に誤りがあります。

手順 5 の正しい内容は次のとおりです。

5. 次のコマンドを実行して出力を保存します。

Solaris:

```
ps -ef | grep server-root
vmstat 5 5
iostat [ -t ] [ interval [ count ] ]
top
uptime
```

HP-UX:

```
ps -ef |grep server-root
vmstat 5 5
iostat [ -t ] [ interval [ count ] ]
top
sar
```

Linux:

```
ps -aux | grep server-root
vmstat 5 5
top
uptime
sar
```

Windows の場合 :

1. WEB プロセス PID を取得します。

```
C:¥windbg-root>tlist.exe
```

2. WEB 実行プロセス PID のプロセス詳細を取得します。

```
C:¥windbg-root>tlist.exe web-pid
```

3.2.3 %duration% ログパラメータで使用される時間単位についての記述の明確化

『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 管理者設定ファイルリファレンス』の付録 C 「カスタムログファイル形式の使用」によると、%duration% ログパラメータは、Web Server が要求の処理に費やした時間をマイクロ秒単位で示すとされています。

より明確な記述は次のようになります。

- Solaris および AIX では、Web Server は時間をマイクロ秒単位で計算および記録します。
- 一方、Windows、HP-UX、および Linux では、Web Server は時間をミリ秒単位で計算し、マイクロ秒単位で記録します。

3.2.4 セッション複製のための Web アプリケーションの設定に関する追加情報

『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 管理者ガイド』の「セッション複製のための Web Application の設定」の節では、サーバーでセッションの複製を有効にする方法について説明しています。

手順説明の最初の手順で、sun-web.xml 設定ファイルの session-manager 要素を変更するとされています。これを行うときは、次の例に示すように、reapIntervalSeconds プロパティを 1 秒に設定する必要もあります。

```
<sun-web-app>
  <session-config>
    <session-manager persistence-type="replicated">
      <manager-properties>
        <property name="reapIntervalSeconds" value="1"/>
      </manager-properties>
    </session-manager>
  </session-config>
</sun-web-app>
```

reapIntervalSeconds を 1 秒に設定すると、セッションフェイルオーバー中にセッションデータが失われないことが保証されます。具体的には、再起動後に新しい要求が受け入れられる前にクラスタ化インスタンスが同期されます。

reapIntervalSeconds については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Java Web Applications 開発者ガイド』の「manager-properties 要素」を参照してください。

3.2.5 http-client-config の timeout パラメータについての情報

『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 管理者設定ファイルリファレンス』の表 7-60 「http-client-config のパラメータ」の一覧に timeout パラメータがありません。このパラメータでは、指定された時間の経過後に Web Server がタイムアウトするように設定できます。

timeout パラメータは次のように、obj.conf で http-client-config ObjectType 関数を使用することによって設定できます。

```
ObjectType fn="http-client-config" timeout="value"
```

この設定パラメータは、timeout で指定された時間内に接続元サーバーが応答しない場合に、接続元サーバーへの接続を閉じるように逆プロキシに指示します。このパラメータは、timeout の時間内に要求を完了しなければならないことを意味するものではありません。

timeout パラメータのデフォルト値は 300 秒です。

3.2.5.1 Web Server での逆プロキシの構成

Web Server での逆プロキシの構成についての詳細は、次を参照してください。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19146-01/821-1828/ghquv/index.html>

3.2.6 http-client-config への exclude-escape-chars パラメータの導入

Oracle iPlanet Web Server では、多数の文字をエスケープします。

exclude-escape-chars パラメータは、% & " < > \r \n + * ' などの特定の文字のエスケープを回避するために使用します。

exclude-escape-chars パラメータは、次のように obj.conf 内の http-client-config ObjectType 関数を使用して設定できます。

```
ObjectType fn="http-client-config" exclude-escape-chars="+%"
```

3.2.7 Red Hat Linux オペレーティングシステムでの PID ファイルの消失

Red Hat Linux オペレーティングシステムで PID ファイルが消失し、サーバーを停止することができません。この状況を解消するには、server.xml ファイルの temp-path 値を、サーバーのユーザーが排他的な権利を持っている場所に変更します。次に例を示します。

```
<temp-path>/var/tmp/https-test-73d21d24</temp-path>
```

この状況を解決する別の方法は、tmpwatch プログラム内の temp-directory を除外することです。

3.2.8 トークン名

wadm CLI の password-file オプションに使用するトークン名は小文字にする必要があります。次に例を示します。

```
wadm_internal
```

3.2.9 Solaris 10 での SMF の使用

SMF を使用して管理サーバーを制御する場合は、他のすべてのインスタンスの管理にも必ず SMF を使用することをお勧めします。これにより、すべてインスタンスを個別に制御できます。

3.2.10 set-cookie ヘッダーの問題

セキュリティ上の理由により、7.0.9 リリース以降は set-cookie ヘッダー値に ;HttpOnly が追加されます。ただし、これを set-cookie ヘッダーに追加したくない場合は、次のプロセスを使用します。

server.xml 内の servlet-container 要素の httponly-session-cookie プロパティを false に設定します。

httponly-session-cookie という新しいプロパティは、server.xml 構成ファイルの servlet-container 要素に追加されています。デフォルトでは、このプロパティは true になっており、;HttpOnly が set-cookie ヘッダーに追加されます。このフラグが false に設定されている場合は、;HttpOnly を追加しても適用されません。このプロパティは、CLI と管理コンソールの両方の管理インタフェースから設定できます。CLI を使用すると、set-servlet-container-prop を使ってこのプロパティを false に設定できます。管理コンソールを介してこれを設定するには、「サーブレットコンテナ」のページを使用します。

3.3 ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Oracle Web サイトには、次の追加リソースに関する情報が用意されています。

- ドキュメント：
<http://www.oracle.com/technetwork/jp/documentation/index.html>
- サポート：<http://support.oracle.com/>
- トレーニング：http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=315

以前の Web Server 7.0 リリースの機能および拡張機能

以下の節では、以前のリリースの機能および拡張機能の一覧を示します。

- [付録 A.1 「7.0.12 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.2 「7.0.11 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.3 「7.0.10 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.4 「7.0.9 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.5 「7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.6 「7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.7 「7.0 Update 6 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.8 「7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.9 「7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.10 「7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.11 「7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.12 「7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能」](#)
- [付録 A.13 「7.0 の諸機能および拡張機能」](#)

A.1 7.0.12 の諸機能および拡張機能

次の各節では、重要な Oracle iPlanet Web Server 7.0.12 の新機能と拡張機能について説明します。

- [第 A.1.1 節 「セキュリティーコンポーネントのアップグレード」](#)
- [第 A.1.2 節 「http-client-config SAF への exclude-escape-chars パラメータの導入」](#)
- [第 A.1.3 節 「servlet-container 要素への httponly-session-cookie プロパティの導入」](#)

以前の Oracle iPlanet Web Server 7.0 リリースの新機能と拡張機能については、[付録 A](#) を参照してください。

A.1.1 セキュリティーコンポーネントのアップグレード

新しいセキュリティーコンポーネント NSS 3.12.10 が Oracle iPlanet Web Server 7.0.12 に組み込まれました。

A.1.2 http-client-config SAF への exclude-escape-chars パラメータの導入

Oracle iPlanet Web Server では、エスケープされない文字の一覧を指定する `exclude-escape-chars` と呼ばれる新しいパラメータが導入されました。詳細については、第 3.2.6 節「[http-client-config への exclude-escape-chars パラメータの導入](#)」を参照してください。

A.1.3 servlet-container 要素への httponly-session-cookie プロパティの導入

Oracle iPlanet Web Server では、`httponly-session-cookie` と呼ばれる新しいプロパティが `servlet-container` に導入されました。詳細については、第 3.2.10 節「[set-cookie ヘッダーの問題](#)」を参照してください。

A.2 7.0.11 の諸機能および拡張機能

次の各節では、重要な Oracle iPlanet Web Server 7.0.11 の新機能と拡張機能について説明します。

- 付録 A.2.1「[JDK バージョンの更新](#)」

A.2.1 JDK バージョンの更新

Oracle iPlanet Web Server 7.0.11 では、製品とともにパッケージ化されている JDK 6 のバージョンが JDK 6 update 24 に変更されています。この変更は、セキュリティの脆弱性 CVE-2010-4476 (「2.2250738585072012e-308」をバイナリ浮動小数点数に変換すると、Java Runtime Environment がハングアップする) に対応するためです。

セキュリティの脆弱性 CVE-2010-4476 の詳細は、次のオラクルセキュリティアラートを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/topics/security/alert-cve-2010-4476-305811.htm>

A.3 7.0.10 の諸機能および拡張機能

次の各節では、重要な Oracle iPlanet Web Server 7.0.10 の新機能と拡張機能について説明します。

- 付録 A.3.1「[htaccess 認証グループファイルでのグループ行の最大長が増加](#)」
- 付録 A.3.2「[JDK が 1.6.0_22 に更新](#)」
- 付録 A.3.3「[NSS が 3.12.8 に更新](#)」

A.3.1 htaccess 認証グループファイルでのグループ行の最大長が増加

Oracle iPlanet Web Server 7.0.10 で、`htaccess` 認証グループファイルのグループ行の最大長が、以前の 1K バイト (1024 文字) から 8K バイト (8192 文字) に増加しました。

A.3.2 JDK が 1.6.0_22 に更新

Solaris、Linux、および Windows で Web Server 7.0.10 の一部として配布される JDK 6 がバージョン 1.6.0_22 に更新されます。

JDK 1.6.0_22 での変更点については、次の JDK 6 リリースノートを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/6u22releasenotes-176121.html>

A.3.3 NSS が 3.12.8 に更新

Web Server 7.0.10 には NSS バージョン 3.12.8 が統合されています。

このバージョンでの変更点については、次の NSS 3.12.8 リリースノートを参照してください。

https://developer.mozilla.org/en/NSS_3.12.8_release_notes

A.4 7.0.9 の諸機能および拡張機能

Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 は Sun Java System Web Server 7.0 の更新リリースです。Web Server 7.0.9 では、Web Server 7.0 および Updates 1 から 8 の諸機能および拡張機能以外に、以下の各節で説明する機能および拡張機能が製品に追加されます。

- 付録 A.4.1 「SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消」
- 付録 A.4.2 「JDT Java コンパイラのサポート」
- 付録 A.4.3 「Oracle JRockit JDK のサポート」
- 付録 A.4.4 「認証時のセッション ID の変更機能」
- 付録 A.4.5 「大型アプリケーションで add-webapp の --directory オプションが非推奨に」

A.4.1 SSL/TLS 脆弱性 CVE-2009-3555 の解消

Web Server 7.0 Update 7 には NSS 3.12.5 が含まれていましたが、これは SSL/TLS 再ネゴシエーション脆弱性

<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2009-3555> を軽減しましたが、解消するまでには至りませんでした。さらに、Web Server 7.0 Update 7 では、Web Server を攻撃から保護するために、SSL/TLS 再ネゴシエーションをすべて無効にしていました。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗しました。

Web Server 7.0.9 には NSS 3.12.6 が含まれており、これが安全な SSL/TLS 再ネゴシエーションを実現し、CVE-2009-3555 を解消します。この結果、Web Server 7.0.9 では SSL/TLS 再ネゴシエーションを再び使用できるようになります。

A.4.2 JDT Java コンパイラのサポート

Ant や他の Java コンパイラではなく Eclipse JDT Java コンパイラを使用するように Web Server を設定できるようになりました。詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications』の「Using the Eclipse JDT Java Compiler (Eclipse JDT Java コンパイラの使用)」を参照してください。

A.4.3 Oracle JRockit JDK のサポート

Web Server は、サポート対象の 32 ビットプラットフォームで、Oracle JRockit JDK をサポートするようになりました。7.0.9 リリースの場合、JRockit JDK バージョンの最低条件は R 27.6.5 です。このバージョンは Java SE 6 Update 14 (1.6.0_14) と互換性があることが確認されています。

A.4.4 認証時のセッション ID の変更機能

Web Server 7.0.9 は、`changeSessionIdOnAuthentication` プロパティを、`sun-web.xml` ファイルの `sun-web-app` 要素に追加します。このプロパティは、セッション固定攻撃を回避するために、認証時に Web アプリケーションがセッション ID を変更できるようにします。詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications』の「`sun-web-app` Element (`sun-web-app` 要素)」を参照してください。

A.4.5 大型アプリケーションで `add-webapp` の `--directory` オプションが非推奨に

大型アプリケーションでは、Web Server のルートディレクトリ外の場所に展開した `war` ファイルへのパスを指定するには、`add-webapp` コマンドの `--file-on-server` オプションを使用する必要があります。ただし、管理サーバーは、Web Server のルートディレクトリ以外の場所に配備した Web アプリケーションは管理しません。

詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Deploying a Web Application Directory (Web アプリケーションディレクトリの配備)」を参照してください。

A.5 7.0 Update 8 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 8 には、セキュリティの脆弱性に関する次の修正が含まれています。

Bug 6916389 では、Sun Java System Web Server に対する WebDAV 拡張機能でのバッファオーバーフローの脆弱性について説明します。これらの問題により、リモートクライアントが Web Server のクラッシュを発生させ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。また、これらの問題により、リモートの無許可ユーザーが昇格した特権を獲得し、機密情報を含むファイルにアクセスして変更を加えることができる可能性があります。

Bug 6916390 では、Sun Java System Web Server に対する WebDAV 拡張機能での書式文字列の脆弱性について説明します。これらの問題により、リモートクライアントが Web Server のクラッシュを発生させ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。また、これらの問題により、リモートの無許可ユーザーが昇格した特権を獲得し、機密情報を含むファイルにアクセスして変更を加えることができる可能性があります。

Bug 6916391 では、Sun Java System Web Server のダイジェスト認証方法で起きるバッファオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が原因となって、昇格した特権で任意のコードが実行されてしまう可能性もあります。

Bug 6916392 では、Sun Java System Web Server の HTTP TRACE 機能で起きるヒープオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が悪用され、機密情報への無許可アクセスを許してしまう可能性もあります。

A.6 7.0 Update 7 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 7 では Kerberos/SPNEGO のサポートが導入されています。このリリースでは、gssapi と呼ばれる新しい ACL 認証方法が導入されています。gssapi 認証方法は Kerberos ユーザーリポジトリと連携します。このリリースでは、gssapi 認証方法での使用に適した kerberos 型の auth-db も導入されています。

Kerberos 認証の設定については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Working With the Authentication Database (認証データベースに関する作業)」を参照してください。

注： Solaris 上の Kerberos 対応 Web Server は、Windows 2003 上の Internet Explorer や RHEL 5.3 上の Firefox などのクライアントとの組み合わせでテストされています。

Web Server 7.0 Update 7 は Windows 2008 SP2 32 ビット (x86) Enterprise Edition をサポートします。

Web Server 7.0 Update 7 には JDK 6 が含まれています。管理サーバーのパフォーマンスが向上しています。

Web Server 7.0 Update 7 には、脆弱性を修正する Xerces C++ パッチが統合されています。詳細は、<http://www.cert.fi/en/reports/2009/vulnerability2009085.html> を参照してください。

注： Web Server 7.0 Update 7 では、Update 6 で誤って導入された LDAP 認証における回帰 (6888100) が解決されています。LDAP 認証を使用するすべての顧客に Update 7 へのアップグレードをお勧めします。

A.6.1 非推奨のプラットフォーム

Solaris 8 および Windows 2000 の各プラットフォームは非推奨です。これらのプラットフォームは、Web Server 7.0 Update 9 以降ではサポートされなくなる予定です。

A.6.2 SSL/TLS の脆弱性の修正 (CVE-2009-3555)

Web Server 7.0 Update 7 がアップグレードされ、SSL/TLS の再ネゴシエーションに関する脆弱性

(<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2009-3555>) への対策が施された NSS 3.12.5 が含まれるようになりました。

この脆弱性は、現在の SSL/TLS 再ネゴシエーションプロトコル定義の不備によるものです。Web Server 実装のバグではありません。そのような理由により、この脆弱性に対する実装レベルの修正は提供されません。Web Server を攻撃から守るための唯一の回避方法は、再ネゴシエーションを完全に無効化することです。

したがって、Web Server 7.0 Update 7 では SSL/TLS 再ネゴシエーションのすべての使用が無効になっています。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗します。

SSL/TLS 接続が最初に確立されたあと、しばらく時間がたってからクライアント証明書を取得する目的には、再ネゴシエーションを使用するのが一般的でした。現在では、Web アプリケーションがこの方法でクライアント証明書を取得しようとしても失敗します。

初期の接続ハンドシェイクの間にクライアント証明書を取得する処理は、現在も正常に機能します。このモードは、server.xml で client-auth 要素を「required」に設定することによって設定できます。

```
<http-listener>
  <ssl>
    <client-auth>required</client-auth>
  </ssl>
</http-listener>
```

Web Server 7.0 の将来のアップデートでは、IETF が新規のプロトコル拡張の設計を確定した時点で速やかに、安全な再ネゴシエーションプロトコルを実装する予定です。NSS_SSL_ENABLE_RENEGOTIATION=1 のように環境変数を設定することにより、脆弱性のある SSL/TLS 再ネゴシエーション機能を再び有効にすることが可能です。このモードは CVE-2009-3555 で説明されている攻撃に対して脆弱であることが確認されています。

A.7 7.0 Update 6 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 6 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3、Update 4、Update 5 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 6 では、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

- Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 には新しい NSS (Network Security Services) 3.12.3 が組み込まれています。このバージョンの NSS では、<http://cve.mitre.org/cgi-bin/cvename.cgi?name=CVE-2009-2404> のセキュリティ管理が修正されています。

このバージョンで追加された環境変数の詳細は、次のリソースを参照してください。

<http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/nss-3.12.3/nss-3.12.3-release-notes.html>

- Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 には、NSS 3.12.3 と NSPR 4.7.4 バージョンの両方が含まれます。
- Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 は、Solaris 8 Branded Zones をサポートします。

A.8 7.0 Update 5 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 5 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3、Update 4 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 5 では、次の機能が製品に導入されています。

A.8.1 バイナリロギング

バイナリロギングは、Sun Java System Web Server 7.0 Update 5 で導入された機能です。この機能を使用すると、サーバー上でホストされているすべての Web サイトの未フォーマットバイナリログデータを 1 つのログファイルに含めて、サーバー情報を格納することができます。これにより、ロギングで使用されるシステムリソースの利用率が最小化されるため、詳細なログ情報を記録しつつ、パフォーマンスおよび拡張性が改善される場合があります。

詳細については、次を参照してください。『Oracle iPlanet Web Server パフォーマンスのチューニング、サイジング、およびスケーリング』

A.9 7.0 Update 4 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 4 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1、Update 2、Update 3 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 4 では、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

A.9.1 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME のサポート

Web Server 7.0 Update 4 では、CGI および FastCGI サブシステムに環境変数 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME が追加されています。これらの変数は、Apache の CGI と FastCGI の両方でデフォルトに設定されており、WordPress を含む多くの PHP アプリケーションで使用されます。

これらの変数に関する問題については、第 2.2 節「Web Server のコアの問題」の問題 ID 6785490 を参照してください。

A.9.2 default-sun-web.xml のサポート

Web Server 7.0 Update 4 リリースでは、default-sun-web.xml のサポートが提供されています。管理サーバーの LDAP 認証では default-sun-web.xml のサポートが必要であり、これによりグループ ID の構成が可能になります。

A.9.3 OpenSolaris 2008.11 のサポート

Web Server 7.0 Update 4 リリースでは、OpenSolaris 2008.11 のサポートが提供されています。OpenSolaris 2008.11 は OpenSolaris オペレーティングシステムの最新リリースです。

パッケージ要件

Sun Java System Web Server 7.0 Update 4 以降を OpenSolaris にインストールするには、次の追加 IPS パッケージをリポジトリからインストールする必要があります。

- SUNWpkgcmds
- SUNWmfrun
- java-dev

A.10 7.0 Update 3 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 3 は、Web Server 7.0 へのアップデートリリースです。Web Server 7.0 および Web Server 7.0 Update 1、Update 2 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 3 では、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

A.10.1 AIX プラットフォームのサポート

Web Server 7.0 Update 3 リリースでは、AIX 5.3 および 6.1 プラットフォームのサポートが提供されています。

A.10.2 Web アプリケーションの自動配備

Web Server 7.0 Update 3 で導入された自動配備機能を使えば、指定されたディレクトリにコピーするだけで、1 つ以上の Web アプリケーションを配備できます。サーバーは、Web アーカイブ形式 (.war ファイル)、または Web アーカイブを展開したディレクトリ内の Web アプリケーションを自動的に配備します。

Web Server の自動配備機能の詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Developer's Guide to Java Web Applications』の「Autodeploying Web Applications (Web アプリケーションの自動配備)」を参照してください。

A.11 7.0 Update 2 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 2 は、Web Server 7.0 のアップデートリリースです。Web Server 7.0、Web Server 7.0 Update 1 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 2 では、以下の各節で説明する付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。

付録 A.11.1 「PKCS11 バイパスのサポート」

付録 A.11.2 「サービス管理機能 (SMF) のサポート」

付録 A.11.3 「非同期アクセラレータキャッシュのサポート」

付録 A.11.4 「拡張された Web コンテナ」

付録 A.11.5 「改善された管理エクスペリエンス」

付録 A.11.6 「Red Hat 4.0 64 ビットのサポート」

付録 A.11.7 「NetBeans 6.5 IDE のサポート」

A.11.1 PKCS11 バイパスのサポート

Web Server 7.0 Update 2 には、SSL/TLS 処理の一部で PKCS#11 層をバイパスするよう NSS に指示するオプションが導入されています。PKCS#11 層をバイパスすると、パフォーマンスが向上します。デフォルトでは、PKCS#11 層はバイパスされません。サーバーの起動時に、サーバーはサーバーキーを格納している各トークンに問い合わせ、各トークンが PKCS#11 のバイパスをサポートできることを確認します。いずれのトークンもバイパスをサポートできない場合は、バイパスは無効になります。したがって、PKCS#11 のバイパスによるパフォーマンス向上の利点を最大限に活用するために、ユーザーによる操作は必要ありません。サーバーではバイパスが自動的に活用され、トークンが現在の構成で使用できない場合は自動的にバイパスが無効になります。詳細は、『Oracle iPlanet Web Server Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

Web Server では、バイパスを有効または無効にするためのコマンド行インタフェース (CLI) および管理コンソールのサポートが提供されています。管理コンソールまたは CLI を使用して PKCS バイパスを有効または無効にする方法については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「To Enable and Bypass PKCS#11 Tokens (PKCS#11 トークンを有効化およびバイパスするには)」を参照してください。

A.11.2 サービス管理機能 (SMF) のサポート

Web Server 7.0 Update 2 は、Java プラットフォーム向けの Solaris 10 サービス管理機能 (SMF) と統合されています。SMF は、Solaris Operating System の新機能で、各 Solaris システムのサービスおよびサービス管理のための基盤となる、統一されたモデルを作成します。また、Solaris 用に長時間動作するアプリケーションサービスを定義、配信、および管理するメカニズムです。サービスはサービスマニフェスト (サービスおよびそのサービスに関連付けられたインスタンスを記述する XML ファイル) で定義されます。

Web Server での SMF サポートの詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Integrating Service Management Facility for the Java Platform with Web Server (Java プラットフォームのサービス管理機能の Web Server への統合)」を参照してください。

A.11.3 非同期アクセラレータキャッシュのサポート

Web Server 7.0 Update 2 では、アクセラレータキャッシュから非同期に処理できる要求の処理がサポートされています。その結果、サーバーのパフォーマンスが向上します。

付加価値のある機能は、次のとおりです。

- 動的再構成
- magnus.conf の AsyncAccelerator フラグによる非同期キャッシュの無効化
- 要求が非同期アクセラレータから統計までで処理される
- 要求が非同期アクセラレータで処理されるときにアクセスログの書き込みをバッチ処理する

A.11.4 拡張された Web コンテナ

Web Server 7.0 Update 2 では、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能が導入されています。以前の Web Server のリリースでは、要求時にサーブレットコンテナで例外が発生すると、内部アプリケーションの詳細は表示せずにクライアントで「サーバーエラー」が表示されていました。この機能が有効と無効のいずれの場合でも、常に例外がエラーログに記録されます。

注： デフォルトでは、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能は無効になっています。set-servlet-container-prop コマンドを使用するか、または管理コンソールの「サーブレットコンテナ」タブにある「表示例外」チェックボックスを使用すると、この機能を有効化できます。この機能は、開発の目的で役立ちます。実稼働システムではこの機能を有効にしないことを強くお勧めします。

A.11.5 改善された管理エクスペリエンス

Web Server 7.0 Update 2 では、以下の重要な機能が導入され、管理性が向上しています。

配備済み構成のロールバックのサポート

Web Server 7.0 Update 2 では、配備済みの構成のロールバックがサポートされています。現在、Web Server 管理では、管理者はすべての配備済み構成で自動的にバックアップを取得できます。管理 CLI を使用して、バックアップの一覧を表示したり、指定したバックアップを復元したりできます。

管理サーバーパスワードの設定のサポート

Web Server 7.0 Update 2 では、管理サーバーのユーザーパスワードをリセットできます。ただし、この機能は管理サーバーのノードにおいてローカルでのみ動作します。

CA 証明書の管理のサポート

管理コンソールを使用すると、CA 証明書、証明書チェーン、および CRL のインストール、削除、およびフィルタ処理が可能です。さらに、サーバーは間もなく期限切れになる証明書についてユーザーに警告します。

管理機能については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.11.6 Red Hat 4.0 64 ビットのサポート

Web Server 7.0 Update 2 では、Web Server の 2 ビットスタンドアロンバージョンがサポートされています。

Web Server 7.0 64 ビット Linux は、別々のスタンドアロンのみでのディストリビューションであり、Web Server 7.0 32 ビット Linux とは共存できません。Web Server 7.0 64 ビット Linux では、64 ビット Java 開発キット 5.0 アップデート 12 以降が必要です。管理サーバーとサーバーインスタンスのどちらも、64 ビットサーバーのみがサポートされています。Linux 用の Web Server 7.0 64 ビットでは、以前のリリースからの移行はサポートされていません。

A.11.7 NetBeans 6.5 IDE のサポート

Web Server 7.0 Update 2 では、NetBeans 6.5 IDE への接続がサポートされているため、ユーザーはアプリケーションの開発、デバッグ、および Web Server への配備を行うことができます。NetBeans 6.5 IDE を使用すると、アップデートセンターから NetBeans のプラグインをダウンロードできます。

注： Web Server では、NetBeans 6.5 IDE のサポートに加えて、IDE の NetBeans 6.1、6.0、および 5.5.1 バージョンがサポートされています。

A.12 7.0 Update 1 の諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 1 は Web Server 7.0 のアップデートリリースです。

Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 1 は Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 5.0 および Web 2.0 テクノロジーをサポートします。

以下の各節では、7.0 Update 1 の新機能と拡張機能について説明します。

- 付録 A.12.1 「Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート」
- 付録 A.12.2 「JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 および JavaServer Faces 1.2 のサポート」
- 付録 A.12.3 「アクセラレータキャッシュテクノロジー」
- 付録 A.12.4 「FastCGI 設定の管理サポート」
- 付録 A.12.5 「NetBeans サポート」
- 付録 A.12.6 「管理コンソールでの正規表現設定のサポート」
- 付録 A.12.7 「パターンマッチングの GUI および CLI サポート」

A.12.1 Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート

Web Server には、Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 5 に準拠する、Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 テクノロジー仕様の実装が含まれています。Web Server により、Java テクノロジー標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。

Java Servlet テクノロジーは、Web 開発者に、Web Server の機能を拡張したり既存のビジネスシステムにアクセスしたりするためのシンプルで一貫したメカニズムを提供します。JSP テクノロジーを使用することで、簡単にすばやく動的な Web コンテンツを作成できます。JSP テクノロジーによって、サーバーとプラットフォームに依存しない Web ベースのアプリケーションを迅速に開発することが可能になります。

これらのテクノロジーについては、次のリソースを参照してください。

<http://download.oracle.com/javaee/5/tutorial/doc/>

A.12.2 JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 および JavaServer Faces 1.2 のサポート

JavaServer Pages Standard Tag Library 1.2 は、多くの Web アプリケーションに共通するコア機能をカプセル化したカスタムタグを提供します。JSP 標準タグライブラリには、繰り返しや条件などの構造にかかわる一般的なタスクのサポートが含まれています。XML ドキュメントを操作するためのタグ、国際化タグ、および SQL タグも提供されています。また、既存のカスタムタグを JSP 標準タグライブラリタグに統合するためのフレームワークも提供しています。

Web Server は JavaServer Faces テクノロジーをサポートします。JavaServer Faces は Web アプリケーションを構築するためのユーザーインターフェースフレームワークです。

これらのテクノロジーについては、次のリソースを参照してください。

<http://download.oracle.com/javaee/1.4/tutorial/doc/index.html>

A.12.3 アクセラレータキャッシュテクノロジー

Web Server には、サイズの小さいファイルの伝送速度を上げるアクセラレータキャッシュテクノロジーが新たに組み込まれています。アクセラレータキャッシュは自動的に有効になるため、設定する必要はありません。詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』の「File Cache Statistics Information (ファイルキャッシュ統計情報)」を参照してください。

A.12.4 FastCGI 設定の管理サポート

単一の FastCGI アプリケーションの設定は、管理コンソールでもコマンド行インタフェース (CLI) でも行えます。また、設定ファイルを使用して Web Server で FastCGI を設定することもできます。

複数の FastCGI アプリケーションを設定する方法については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Configuring Multiple FastCGI Applications (複数の FastCGI アプリケーションの設定)」を参照してください。

A.12.5 NetBeans サポート

Web Server が提供するプラグインを使えば、NetBeans 統合開発環境 (IDE) と統合して Web アプリケーションの配備やデバッグを行えるようになります。NetBeans は、標準コンポーネントを使って Java Platform Enterprise Edition (Java EE) ベースの Web アプリケーションを作成するための、完全な開発環境です。

このプラグインは、Web アプリケーションの配備のほかに、次のアクティビティもサポートします。

- サーバーインスタンスの開始や停止など、インスタンスの管理
- アプリケーションの有効化または無効化
- JDBC リソースや JDBC 接続プールなど、サーバー全体のリソースの作成

NetBeans については、次を参照してください。

<http://www.netbeans.org/kb/index.html>

A.12.6 管理コンソールでの正規表現設定のサポート

Web Server は、管理コンソールを使用して obj.conf ファイル内に正規表現を作成するための機能を提供します。ただし、管理コンソールで作成する正規表現は、URL リダイレクトの <If>..</If> 条件の形式に限定されます。

管理コンソールを使用して正規表現を作成する方法については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.12.7 パターンマッチングの GUI および CLI サポート

Web Server は、管理コンソールおよび CLI を使用して URI、URI プレフィックス、URI ワイルドカードパターンのプロパティを設定するための機能を提供します。

管理コンソールを使用して URI パターンのプロパティを設定する方法については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

CLI コマンドを使用して URI パターンのプロパティを設定する方法については、『Oracle iPlanet Web Server Command-Line Reference』を参照してください。

A.13 7.0 の諸機能および拡張機能

Solaris、SPARC、および AMD 64 プラットフォーム上で、Web Server を 64 ビットアプリケーションとして実行するように設定できます。

Web Server は、包括的なコマンド行インタフェース (CLI) のサポート、統合された構成、ECC (Elliptic Curve Cryptography) のサポートによって強化されたセキュリティー、およびクラスタリングのサポートを提供します。また、これには堅牢な組み込み移行ツールも付属していて、Web Server 6.0 や Web Server 6.1 から Web Server 7.0 にアプリケーションと構成を移行する際に役立ちます。

以下の各節では、Web Server 7.0 の新機能について説明します。

- 付録 A.13.1 「JMX ベースの管理インフラストラクチャー」
- 付録 A.13.2 「再設計された管理サーバーインタフェース」
- 付録 A.13.3 「コマンド行インタフェースのサポート」
- 付録 A.13.4 「Sun N1 Service Provisioning System のサポート」
- 付録 A.13.5 「統合された設定ファイル」
- 付録 A.13.6 「JNDI のサポート」
- 付録 A.13.7 「Java Database Connectivity および接続プールのサポート」
- 付録 A.13.8 「強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート」
- 付録 A.13.9 「統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー」
- 付録 A.13.10 「軽量セッションレプリケーションのサポート」
- 付録 A.13.11 「正規表現による URL のリダイレクションおよびリライト」
- 付録 A.13.12 「広範なリアルタイム監視サポート」
- 付録 A.13.13 「統合された逆プロキシ」
- 付録 A.13.14 「強化されたセキュリティー」
- 付録 A.13.15 「楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート」
- 付録 A.13.16 「Oracle Java Studio Enterprise のサポート」
- 付録 A.13.17 「ローカリゼーションサポート」

A.13.1 JMX ベースの管理インフラストラクチャー

Web Server の管理インフラストラクチャーは、最新の分散 JMX (Java Management Extensions) テクノロジーに基づいています。JMX テクノロジーは、デバイス、アプリケーション、およびサービス駆動型ネットワークの管理と監視のための分散ソリューション、

Web ベースソリューション、モジュール化ソリューション、および動的ソリューションを構築するツールを提供します。JMX は、クラスタ化された複数の Web Server 配備をまたがってインスタンス、設定、および Web アプリケーションを管理および監視する際に役立ちます。

A.13.2 再設計された管理サーバーインターフェース

管理サーバーとは、管理アプリケーションの配備先となる、特別に設定された Web Server インスタンスのことです。サーバーファームの各ノード上では、管理インスタンスが 1 つずつ実行されます。これらのノードのうち、1 つのノードが管理サーバーとして設定され、残りは管理ノードとして設定されます。

Web ベースの管理サーバーは、共通のタスクによりアクセスしやすいように、かつ複雑なタスクをより実行しやすいように再設計されています。

管理サーバーには次の新機能が含まれています。

- もっとも一般的なタスクを実行するための、Web ベースのウィザード
- サーバー設定タスクやサーバー管理タスク向けの包括的なコマンド行インターフェース (CLI) のサポート
- 集約された設定ストア
- Web Server の設定情報を複数のマシン上に配備する機能のサポート。この機能は、サーバーファームやサーバークラスタ内の Web Server をサポートするように拡張されています。
- 組み込み型のサーバークラスタ管理 / 監視機能

管理インターフェースを使用して管理タスクを実行する方法については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.13.3 コマンド行インターフェースのサポート

コマンド行インターフェース (CLI) を使えば、サーバーを容易に設定および管理できます。

CLI の主要機能は次のとおりです。

- スクリプティング用の組み込み Java コマンド言語 (jac1) シェル
- 拡張可能な CLI。これにより、他社製のプラグインを使ってほかのコマンドを追加できるようになります
- ローカルおよびリモートでの管理、設定、および 1 つ以上のサーバーインスタンスの管理に対するサポート
- コマンドを 1 文字以上入力して Tab キーを押したときの自動補完
- シングルモード、シェルモード、およびファイルモードを含む、使いやすい CLI ベースの操作モード

コマンドの詳細は、『Oracle iPlanet Web Server Command-Line Reference』を参照してください。

A.13.4 Sun N1 Service Provisioning System のサポート

Web Server は Sun N1 Service Provisioning Server 5.2 と統合されています。Sun N1 Service Provisioning System はアプリケーションプロビジョニングツールであり、これを使えばカスタムスクリプトを使う必要がなくなります。Web Server は Sun N1 Service Provisioning System と統合されているため、管理者は、データセンター環境やサーバーファームで複数の Web Server インスタンスをインストールするためのカスタムスクリプトを記述する必要がありません。

A.13.5 統合された設定ファイル

Web Server の設定ファイルは、管理を単純化するために再配置および統合化されています。

以前のバージョンの Web Server では、userdb ディレクトリ内の設定ファイルがすべてのインスタンスによって共有されていましたが、それらのファイル内に格納された情報がインスタンス固有のものであることがしばしばでした。Web Server 7.0 では、userdb ディレクトリ内の設定ファイルが削除されています。それらの機能は、config ディレクトリの server.xml ファイル内に組み込まれています。alias および httpacl ディレクトリの構成ファイルは、config ディレクトリに移動されています。これらの変更により、インスタンス固有の config ディレクトリ内のインスタンス固有の構成情報は強化されています。

設定ファイルについては、『Oracle iPlanet Web Server Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

A.13.6 JNDI のサポート

Java Naming and Directory Interface (JNDI) API は、さまざまな企業のネーミング / ディレクトリサービスへのシームレスな接続を提供します。

A.13.7 Java Database Connectivity および接続プールのサポート

Web Server は、すぐに使えてシームレスな JDBC (Java DataBase Connectivity)、テクノロジーを提供し、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまでを幅広くサポートしています。

Web Server は、JDBC 接続プール、つまり特定のデータベースに対する再利用可能な一連の接続をサポートします。新しい接続をそれぞれ作成するには時間がかかるので、パフォーマンス向上のために、サーバーは利用可能な接続のプールを保持しています。アプリケーションが接続を要求すると、プールから 1 つの接続が取得されます。アプリケーションが接続を閉じると、接続はプールに返されます。

JDBC 接続プールの作成については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.13.8 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Sun Java System Web Server 7.0 は、Web サーバーでの SSL のパフォーマンスを向上させる Sun Crypto Accelerator 4000、6000 のハードウェアアクセラレータボードをサポートしています。

注： Web Server の使用時に Sun Crypto Accelerator カードを初期化します。Sun Crypto Accelerator の詳細については、次の場所にある「Sun Crypto Accelerator 6000 Board Version 1.1 User's Guide」を参照してください。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19321-01/index.html>

A.13.9 統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー

Web Server には、Java Web Services Developer Pack (Java WSDP) 2.0 テクノロジーと XML テクノロジーが含まれています。Java WSDP を使って開発された Web サービスは、wadm コマンドを使用することで Web アプリケーションとして Web Server 上に配備できます。

Web Server 7.0 は、XML 暗号、XML デジタル署名などのセキュリティー機能をサポートするほか、メッセージセキュリティープロバイダもサポートします。

Java WSDP 2.0 の詳細は、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/java/webservicespack-jsp-140788.html>

Java WSDP 2.0 のサンプルは次の場所にあります。これらのサンプルは Web Server 7.0 に配備可能です。

http://java.sun.com/webservices/downloads/2.0_preview_webservicespack.html

A.13.10 軽量セッションレプリケーションのサポート

Web Server は、クラスターベースのセッションレプリケーションおよびフェイルオーバーをサポートします。セッションレプリケーションとフェイルオーバーを使えば、あるサーバーインスタンスから同じサーバークラスター内の別のインスタンスへ HTTP セッションをレプリケートすることで、Web アプリケーションの可用性を高めることができます。HTTP セッションはそれぞれリモートインスタンス上にバックアップコピーが作成されるため、クラスター内のあるインスタンスが利用不可能になるようなサーバー障害が発生しても、セッションを問題なく継続できます。

軽量セッションレプリケーションのサポートの詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.13.11 正規表現による URL のリダイレクションおよびリライト

Web Server 7.0 では、obj.conf 設定ファイルにおける正規表現と条件処理のサポートが強化されました。

主な拡張内容は次のとおりです。

- 正規表現のサポート
- 新しい URI で要求を再開するための restart SAF (Server Application Function)
- 式、変数、正規表現後方参照など、動的 SAF パラメータのサポート
- 条件処理用の <If>、<ElseIf>、および <Else> タグ
- and、or、および not 演算子を使用した複合条件のサポート
- 要求および応答の本体をリライトするための、sed-request および sed-response フィルタ

これらの新機能を使えば、Apache HTTP サーバーからの mod_rewrite を使って定義できる規則と同様に、柔軟な URL リライトとリダイレクションの規則を定義できます。mod_rewrite の場合とは異なり、Web Server 7.0 の正規表現と条件処理は要求処理の任意の段階で使用でき、他社製プラグインと合わせて使用することもできます。

正規表現と URL リライト機能の詳細は、『Oracle iPlanet Web Server Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

A.13.12 広範なリアルタイム監視サポート

以前のバージョンの Web Server の監視機能に加え、Web Server には次の拡張機能が追加されています。

- サーブレット、JSP、および JavaServer Pages Standard Tag Library のコンテナ特性を監視する。

- 管理サーバー内からプロセスおよび仮想サーバーの統計情報を監視する。
- Solaris 10 プラットフォームのシステム管理エージェントと統合する。Java Enterprise System Monitoring Framework (Java ES Monitoring Framework) と統合されています。このため、Web Server の監視情報が Java ES Monitoring Framework 内で利用可能になります。
- Java Monitoring and Management Console (jconsole) スクリプト、Java ES Monitoring Framework、または JMX (Java Management Extensions) に準拠した任意のクライアントアプリケーションを使用して、監視データに MBean (Management Beans) としてアクセスする。

Web Server の監視機能の詳細は、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.13.13 統合された逆プロキシ

Sun Java System Web Server 7.0 は、コアサーバー内に逆プロキシ機能を統合します。

Web サーバーに逆プロキシ機能が構成されている場合、1 つ以上のバックエンドサーバーのプロキシとして動作し、サーバーファーム内の単一のアクセスポイントまたはゲートウェイになります。逆プロキシの設定では、Web Server はブラウザクライアントから受信した HTTP 要求を適切なバックエンドサーバーに転送します。バックエンドサーバーからの HTML 応答は、Web Server を介してブラウザに返されます。このため、逆プロキシ機能を備えた Web Server は、ブラウザに対してバックエンドサーバーの存在を隠します。

Web Server は、逆プロキシを設定するための GUI および CLI サポートを提供します。

逆プロキシの設定については、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Configuring Reverse Proxy in Web Server (Web Server での逆プロキシの設定)」を参照してください。

A.13.14 強化されたセキュリティ

Web Server は、データの暗号化と検証、要求の認証、およびサーバープロセスの保護を可能にするさまざまなテクノロジーをサポートしています。

セキュリティ関連の主な拡張内容は次のとおりです。

- Solaris 10 プラットフォームの暗号化フレームワークのサポート。たとえば、libpkcs11.so には、UltraSPARC T1 プロセッサハードウェアアクセラレーションのサポートが含まれています。
- DoS (Denial of Service) 攻撃に対する保護の強化
- ネイティブ sed(1) ベースの入力フィルタリングを使った、クロスサイトスクリプト保護。クロスサイトスクリプトについては、『Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 Administrator's Guide』の「Preventing Cross-Site Scripting Attacks (クロスサイトスクリプト攻撃の防止)」を参照してください。
- Web サービスのセキュリティ：
 - IETF XML デジタル署名
 - W3C XML 暗号
- 統合された P3P (Platform for Privacy Preferences) サポート
- Web ベースの分散オーサリングおよびバージョン管理 (Web-based Distributed Authoring and Versioning, WebDAV) アクセス制御のサポート
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) auth-db が拡張され、検索式とマッチング属性が設定可能になりました。

- LDAP auth-db は Microsoft Active Directory との相互運用性をサポートします。
- Tomcat またはその他の Java キーストアファイルベースリポジトリからの証明書の移行のサポート
- 動的に適用された証明書失効リスト (CRL) のサポート
- 統合された IPv6 のサポート

A.13.15 楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート

Sun Java System Web Server は常に、RSA キーをサポートしてきました。Web Server 7.0 では、RSA キーを引き続きサポートすることに加え、楕円曲線暗号方式 (ECC) を新たにサポートします。

ECC は、モバイルまたはワイヤレス環境向けの次世代の公開鍵暗号方式です。ECC は、非対称暗号を実行するために、一連のキーの生成、暗号化、および復号化のアルゴリズムに基づいています。

Web Server での ECC の使用方法については、『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。

A.13.16 Oracle Java Studio Enterprise のサポート

Web Server 7.0 は Oracle Java Studio Enterprise 8.1 をサポートします。Oracle Java Studio ソフトウェアは、Java テクノロジーの開発者にとって強力で拡張可能な IDE であり、NetBeans ソフトウェアに基づき、Java プラットフォームに統合されています。

Web Server 用のプラグインは、次の方法で取得できます。

- Sun Java System Web Server メディアキットの付属 CD から
- Oracle Java Studio の付属 *AutoUpdate* 機能の使用
- Sun Java System Web Server のダウンロードセンターから

注： Web Server 用の Oracle Java Studio 8.1 プラグインは、ローカル Web Server でのみ機能します。つまり、IDE と Web Server は、同一マシン上にインストールする必要があります。

Oracle Java Studio 8 の詳細は、次のリソースを参照してください。

<http://developers.sun.com/jsenterprise/overview/previous/jse8.jsp>

A.13.17 ローカリゼーションサポート

Web Server は次の言語で使用できます。

- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- 日本語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- 韓国語

B

以前の Web Server リリースにおいて解決済みの問題

次の節では、以前のリリースで修正された重要な問題を一覧表示します。

- [付録 B.1 「7.0.12 で解決された問題」](#)
- [付録 B.2 「7.0.11 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.3 「7.0.10 で修正された問題」](#)
- [付録 B.4 「7.0.9 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.5 「7.0 Update 8 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.6 「7.0 Update 7 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.7 「7.0 Update 6 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.8 「7.0 Update 5 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.9 「7.0 Update 4 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.10 「7.0 Update 3 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.11 「7.0 Update 2 において解決済みの問題」](#)
- [付録 B.12 「7.0 Update 1 において解決済みの問題」](#)

B.1 7.0.12 で解決された問題

この節では、Web Server 7.0.12 で解決された重要な問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
12219154	SUNBT6633543: インストーラのヘルプのレイアウトが間違っている
12249856	SUNBT6756626: URI の長さが 176 文字を超える場合に Windows が「Not Found」ではなく「Forbidden」を返す
12285988	Doc: Solaris 10 で SMF を使用する際に追加のドキュメントが必要である。詳細については、 第 3.2.9 節「Solaris 10 での SMF の使用」 を参照してください。
12301718	管理 : SUNBT6988528: Web Server 7 の管理 GUI で、手動による変更を config に取り込んで展開すると、例外エラー ADMIN3594 がスローされる
12301907	管理 : SUNBT6989495: Web Server 7 - 日本人の顧客が Accept-Language: ja を使用すると、管理サーバーログにエラーが表示される (中国人の場合も同様)
12302497	SUNBT6992330: 「Identity Synchronization for Windows」がすでにインストールされている場合に Web Server 7.0.9 をインストールできない

問題 ID	説明
12303923	Doc: CSR 中にウィンドウを変更してはいけません。詳細については、 第 2.1 節「Web Server の管理の問題」 を参照してください。
12304500	SUNBT2202919: ACL ファイルに IP アドレスが含まれている場合に関数 <code>Lasipeval</code> でクラッシュが発生する
12304725	SUNBT7004026: Web Doc RFE - ある Red Hat Linux オペレーティングシステムで PID ファイルが消失し、その後サーバーを停止できない
12305178	SUNBT7006373: Web Server 7.0: RPP が、追加された Via ヘッダーに関して RFC に準拠していない
12305221	SUNBT7006551: 検索用関数で競合状態が生じたせいで、削除されたメモリーポイントへのアクセスが行われる可能性がある
12305440	SUNBT7007329 Web Server 7.0: 逆プロキシプラグインのパーセントによって URL の「+」文字がエンコードされる
12305700	SUNBT7008469: Web Server 7.0.8: コンテンツタイプヘッダーが 2 回追加されるようになる
12305812	SUNBT7008970 Windows - 証明書をその内側に <code>OU=COMMA</code> と空白を入れて更新すると、 <code>ADMIN4078 CertificateMgrUtil.exe</code> エラーが発生する
12305828	SUNBT2204360: 失効状態の測定で競合状態が生じたために、アイドル状態の接続が負荷を受けて削除される
12306018	SUNBT7009653 Web Server7: Doc: デフォルトの構成で <code>.exe</code> ファイルをダウンロードできない。詳細については、 第 2.4 節「Web Server のインストールの問題」 を参照してください。
12307171	SUNBT7014806 「Respond with URL」メッセージでアクセスを拒否する管理 GUI ACL 制御リストを設定後に変更できない
12307182	SUNBT7014824 Red Hat 5.5 (7.0.9) の <code>Set-Default-Type</code> で Web Server 7.0 がクラッシュする
12307239	SUNBT7015112 Web Server7.0U9: セッションオブジェクトを取得できない
12308375	SUNBT7020877: Doc: 逆プロキシプラグイン (RPP) に関する節を追加できるか。詳細については、 第 3.2.5.1 節「Web Server での逆プロキシの構成」 を参照してください。
12308571	SUNBT2206936: 原始プロセスによってローテーションしたアクセスおよびエラーログへのアクセスが続けられる
12308871	SUNBT2207128 ファイルの内容が変更された場合にサーバーが無効な範囲のデータを送信する
12309078	SUNBT7025406 PWC4011: コンテキストから文字エンコーディングを UTF-8 にする要求を設定できない
12309413	管理 : SUNBT7027455 管理コンソールで構成変更を配備するとエラーがスローされる - 例外 : ADMIN3011: T
12309860	管理 : SUNBT7030096 CSR の O 値に二重引用符を含めることができず、ADMIN4120 メッセージが表示される
12310193	管理 : SUNBT7031604: <code>--password-file</code> オプションを介して 2 番目のトークンのピンを指定できない (OIWS 7)
12354092	Doc: CR#6947733 が表示されない。詳細は、 第 3.2.10 節「set-cookie ヘッダーの問題」 および 第 2.2 節「Web Server のコアの問題」 を参照してください
12354365	Web Server 7.0.9 で、 <code>Set-cookie</code> によって <code>httponly</code> パラメータが自動的に追加される
12382350	Web Server 7.0u9 が <code>INTUTIL_IS_URL</code> でクラッシュする

問題 ID	説明
12634549	セキュリティーバージョン 3.12.10 が Web Server 7.0.13 に組み込まれる
12682013	Doc: wadm CLI で使用されるドキュメントの password-file にはトークン名が小文字で含まれるべきである。詳細については、 第 3.2.8 節「トークン名」 を参照してください。
12685874	Doc: Red Hat Linux オペレーティングシステムで PID ファイルが消失し、あとでサーバーを停止できない。詳細については、 第 3.2.7 節「Red Hat Linux オペレーティングシステムでの PID ファイルの消失」 を参照してください。
12693227	NSPR ライブラリを最新バージョンにアップグレードする
12714871	Doc: 逆プロキシで元の URL のエスケープを無効にするオプションが必要である。詳細については、 第 3.2.6 節「http-client-config への exclude-escape-chars パラメータの導入」 を参照してください。
12721207	Doc: Bug#12657657 の回避方法。詳細については、 第 2.1 節「Web Server の管理の問題」 を参照してください。

B.2 7.0.11 において解決済みの問題

この節では、Web Server 7.0.11 で解決された重要な問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
7007933	7.0u2 以降から 7.0.10 へのアップグレードが失敗する
7018896	Oracle iPlanet Web Server 7.0.11 にバンドルされた JDK 6 update 24
7022621	WS7 でサポートされている JDK のバージョン 参照先 第 1.3.3 節「サポートされる JDK」

B.3 7.0.10 で修正された問題

この節では、Web Server 7.0.10 で解決された重要な問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6908578	管理用 GUI で、検索時に 2 つの異なるサーバーのスケジュールが結合される
6939452	WS7.0 の移行後の設定で、コレクションエントリを検索するための定期保守が設定されていない
6953631	HTTP2228: 応答内容の長さが一致せずリファラのヘッダーで問題が発生する
6960107	サーバーが稼働しているときに一時ディレクトリを変更しようとする失敗する
6962650	管理 GUI で「AT&T CAs」のように証明書ニックネームに「&」が含まれる CA を表示できない
6965425	Kerberos: Kerberos Auth-db が使用されているときは「rq->vars」pblock で「auth-user」を設定する必要がある
6968390	htaccess: グループファイルに 1024 バイトを超える長い行があると認証の問題が発生する
6968626	Kerberos: gssapi.cpp はリソースの Plist ではなく件名の Plist からユーザーを削除すべきである
6968996	Kerberos: get_auth_user_gssapi 関数の戻り値が常に存在すべきである
6971888	Solaris x86 で xerces ライブラリのリンクが正しくないため Web Server の起動が失敗する

問題 ID	説明
6972007	管理ノードのホスト名が小文字でないと ADMIN3763 エラーが発生する
6978321	サブレットキャッシュが有効な状態で顧客の Java コードが例外をスローすると Web 7 がハングアップする可能性がある
6981086	proxyerror_agent_errorf) を起点とする log_error_v の内部で逆プロキシがクラッシュする
6982551	管理 GUI で ACL を正しく削除できない
6987881	セキュリティーバージョン 3.12.8 を統合
6993394	最新の JDK update 22 をバンドル

B.4 7.0.9 において解決済みの問題

この節では、Oracle iPlanet Web Server 7.0.9 で解決された重要な問題を一覧表示します。

バグ ID	説明
6611067	<p>ファイルシステム SELinux のセキュリティーが有効な場合、Red Hat Enterprise Linux インスタンスの開始に失敗する。</p> <p>新しい Linux ディストリビューションには、SELinux プロジェクトから有効な新しいカーネルセキュリティーの拡張機能があります。これらの拡張機能を使用すると、システムセキュリティーをより詳細に制御できます。ただし、SELinux では共有ライブラリのロードなどのデフォルトシステムの動作の一部も変更されているため、他社のプログラムにとって問題となる可能性があります。Web Server 管理サーバーまたはインスタンスの開始時に、「Cannot restore segment prot after reloc: Permission denied」というメッセージを受信した場合は、システムで SELinux が有効であることを表します。</p> <p>回避方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 次のコマンドを実行して、Web Server でロードされたライブラリのデフォルトセキュリティーコンテキストを変更します。 <pre>chcon -t texrel_shlib_t \$WS_DIR/lib/*.so chcon -t texrel_shlib_t \$WS_DIR/jdk/jre/lib/i386/server/*.so</pre> /etc/sysconfig/selinux ファイルに次の行を追加して、SELinux を無効化します。 <pre>SELINUX=disabled</pre>
6837680	逆プロキシの範囲ヘッダーが複数の値を取りません
6885216	パスワードファイルが正しくないときに、WS7.0u6:wadm がエラーを出力しません
6896709	Web Server 7.0 が、インストールパス外に配備された Web アプリケーションを正しく処理しません
6899047	低待ち時間モードで、conn->elapsed が新しい ka 要求に対して更新されません (要求ヘッダータイムアウト)。
6901051	o または ou にコンマが含まれる場合、証明書をインストールできません
6911225	PAM 認証: パスワードのエイジングにより、webservd が free_resp 関数でコアダンプします
6911277	サーバーが /j_security_check -ending URL で 404 を返します
6913746	ホスト名の最初の文字が数字である場合、サーバーを起動できません

バグ ID	説明
6914493	復帰 : wadm reset-admin-password コマンドが Web Server 7.0 U6 および U7 で失敗します
6917800	大量のメモリー消費を引き起こす可能性がある、Web Server 7 の自動チューニングに関するドキュメントバグ
6920807	日本語版 Windows オペレーティングシステムで、管理 GUI 「認証局タブ」と wadm 「list-certs」にエラーが表示されました
6927134	Web 7u8 - 管理 GUI が <virtual-server>-obj.conf に IF/ELSEIF を追加します
6928578	htaccess config により、RHEL & SUSE Linux のインストールで Web サーバーがクラッシュします
6928808	要求送信を行う Java リソースでの HEAD 要求に対する ClassCast 例外
6931166	AIX 5.3/6.1 JDK6SR7 認証に合わせて LIBPATH を修正する必要があります
6933187	ロードバランサのオフラインサーバーチェック間隔が設定できる必要があります
6940796	net_read は、タイムアウトしたときに errno に EAGAIN を設定できます。
6944895	Web 7 RPP に jsessionid がありません
6947057	Web7 RPP ドキュメント - retries パラメータをドキュメントに追加します
6955691	WS7: max-xml-request-body-size を無制限に設定すると、webdav がクラッシュします
6958053	Web 7: war ファイル内のファイル名にコンマを含んだファイルによって、管理 GUI に「配備停止」と表示されます
6960564	WS7U8 を IBM AIX 6.1 にインストールしようとする、エラーメッセージが生成されるが、インストールは成功します。
12354092	CR#6947733 が修正されました。

B.5 7.0 Update 8 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 8 で解決済みの問題を一覧表示します。

バグ ID	説明
6916391	ダイジェスト認証のバッファオーバーフロー。
6916392	TRACE のヒープオーバーフロー。
6916390	WebDAV 形式文字列のバグ。
6916389	WebDAV のスタックオーバーフロー。
6917879	ヘッダー名が空の TRACE 要求が原因で不正な形式の応答が生成される可能性があります。
6930175	Web Server 7.0 Update 8 は、Windows 2008 Standard Edition Service Pack 2 32-bit(x86) をサポートします。

B.6 7.0 Update 7 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 7 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6888100	Web Server 7.0 Update 5 から Update 6 に移行する間、パスワード確認後に再バインドが行われないことにより LDAP 認証が失敗します。
6898371	TLS/SSL プロトコルに重大な脆弱性があります。NSS のアップグレードが必要です。
6811286	サイズの大きい Web アプリケーションが配備されたときに管理 GUI が応答しなくなります。
6849009	Web Server 7.0 Update 4 および Web Server 7.0 Update 5 の管理 GUI または CLI で CertificateMgrUtil を使用して証明書を一覧表示するとき、一覧表示の実行に 60 秒以上の時間がかかることがあります。
6855262	128 個以上の vcpu 使用時に Web Server が FILE を使い切ってしまう。
6855513	Web Server 7.0 Update 7 で、thread-pool 自動設定アルゴリズムが壊れています。
6857815	Kerberos/SPNEGO のサポートが追加されました。
6867192	Web Server 7.0 Update 7 のドキュメントには、max-threads、thread-pool queue-size、および keep alive max-connections を設定するための自動設定機能に関する記述が含まれています。
6869991	Xerces C ライブラリに脆弱性があります。
6880214	JDK 5 はサービス終了 (EOSL) の過程にあるため、Web Server 7.0 には JDK 5 の代わりに JDK 6 が含まれる必要があります。
6881339	async 要求がキープアライブスレッドによって中止されるとサーバーがクラッシュします (統計が有効な場合)。
6882830	FORM 認証が行われるアプリケーションのシングルサインオン (SSO) で、JSESSIONIDSSO Cookie が設定されません。
6887782	PR_GetSockName が失敗した場合に Connection::create がエラーを返し、未使用キューと準備完了キューの両方に接続が追加されます。
6741844	Web Server 7.0 で「Invalid Sequence Number」例外がスローされたあとにセッションフェイルオーバーが発生しません。
6763470	ユーザー名に「,」が含まれる場合に Microsoft Active Directory からの LDAP グループ認証が失敗します。
6815996	.htaccess ファイルを含むディレクトリ内のファイルにアクセスしたときに Web Server 7.0 Update 4 (64 ビット) がクラッシュします。
6830258	Web Server が、キープアライブタイムアウトの期限よりもずっと早くキープアライブ接続を閉じます (Linux 向け Specweb で低 QoS)。
6841548	flexlog.cpp コードが最適化されています。
6849198	サーバー側インクルードファイルの URL が、「/」が付加されたあとに正しく機能します。
6857790	CMT システムで、管理サーバーによるスレッドの自動チューニングが大量のリソースを消費します。
6873985	Web Server 7.0 Update 7 のドキュメントには、サポート対象外であり、インデックス作成と検索が不可能なファイル形式の一覧が含まれます。

問題 ID	説明
6875450	Web Server 7.0 Update 4 コアパッチ (SPARC、x86) の SUNW_REQUIRES フィールドにローカリゼーションパッチ「126332-06」が含まれます。
6877764	メッセージ本文がないときに Web Server 7.0 Update 7 が Content-type: text/html を返しません。
6878259	Sun Web Server 7.0 Update 7 で Webstack PHP がサポートされます。
6885643	Web Server 7.0 で classdebuginfo を false に設定しても JDK6 に対して機能しません。
6897071	外部 JDK がインストールされている場合に、Web Server 7.0 Update 6 の管理 GUI でノード部分に何も表示されません。
6567720	Kerberos 認証の有効化をサポートするように管理フレームワークが強化されています。
6853924	Web Server 7.0 Update 7 では、証明書の更新時にキーサイズの変更が可能であるとしています。
6854885	Web Server 7.0 で、管理 GUI を使用して作成された CA 署名付きの証明書が、証明書をリスナーと関連付けていません。

B.7 7.0 Update 6 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 6 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6854841	Web Server 7 で sun-web.xml の「classdebuginfo」を設定しようとしても、そうした試みがすべて無視されるようです。
6813426	検索コレクションへの PDF ドキュメントの追加が失敗した際に詳細エラーメッセージがログに記録されるようにすべきです。
6801517	「名前」または「ホスト」フィールドの末尾に空白があると、仮想サーバーの作成が失敗します。
6809090	自己署名付き証明書では、署名アルゴリズムとして SHA1 が使用されるべきです。
6856484	Sun Metaslot 内の証明書の更新中にエラーが発生します。
6847901	Web Server には最新の SASL をバンドルすべきです。
6707244	ロガーを含む Web アプリケーションの配備時に、JVM で競合状態が発生します。
6856472	<request-header-timeout> のデフォルト値を -1 から 30 に変更すべきです。
6826625	checkinstall スクリプト内のローカライズ版パッケージ / パッチ依存関係チェックを削除します。
6781962	Internet Explorer 7 で Favicon が正しく表示されません。
6749879	匿名認証が false に設定された Directory Proxy Server で、LDAP 認証が失敗します。
6806858	(ダイナミックグループ使用時に現れる) ACL の脆弱性により、非正規ユーザーのログインが可能となります。
6811110	LDAP が Directory Server コンシューマになっていると、管理 GUI で LDAP 更新が失敗します。

問題 ID	説明
6832878	管理コンソールで、新しい設定ウィザードのテキストを改善する必要があります。
6801700	要求制限のエラーコードを設定する際に、有効な値に関する説明が何も表示されません。
6814138	PROPFIND で最終更新日付と作成日付が正しく表示されません。
6856456	インストールログファイルの最終行がそのファイル自体を指しています。ログファイルの末尾に、詳細情報の取得先として、同じファイルへの参照があります。
6834762	特定のシナリオで、管理サーバーから「Unable to connect to the node host」エラーが出力されます。
6848803	add-webapps の CLI ページと、管理者ガイドの「Deploying Java Web Applications」というタイトルのページを更新すべきです。
6828720	use-responseCT-for-headers のドキュメントを作成すべきです。
6827940	RHEL5.0 上の Web Server 7.0 での FastCGI suid 環境のサポート
6809081	サンプルアプリケーションのドキュメントで、ant の配備を成功させるには管理サーバーを起動する必要がある旨の説明を追加する必要があります。
6860680	Windows の脆弱性 — ファイル拡張子の末尾に「::\$DATA」を追加すると、JSP ページの内容が公開されてしまいます。
6841507	『Sun Java System Web Server 7.0 U5 Administrator's Configuration File Reference Guide』でのドキュメントの誤字。
6834770	virtual-server-name_obj.conf に関する情報が、ドキュメントにほとんど記述されていません。
6839431	Sun MetaSlot 内の証明書の更新中に ADMIN4159 エラーが発生します。
6842383	FastCGI suid 環境を動作させるために必要な設定に関するドキュメントを、さまざまなオペレーティングシステムのパラットフォームに対して作成します。
6841454	CA 署名付き証明書の更新中に生成される CSR が、GUI でフォーマットを必要とします。

B.8 7.0 Update 5 において解決済みの問題

この節では、Sun Java System Web Server 7.0 Update 5 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6732548	app-args の値が “a=b” または “c=d” と指定されている場合、create-fastcgi-handler が期待したとおりに動作しない。
6750707	管理 CLI は、マルチバイト文字を含む文字列を受け付けない。
6723824	以前のバージョンの Web Server から Web Server 7.0 Update 3 に移行すると、インスタンスの移行には成功するが、異常な移行ログファイルが生成される。
6764940	obj-https-INSTANCE.conf が obj.conf と異なる。 管理サーバーの GUI または CLI から始めて obj.conf に変更を加えるときに、<https-instance>-obj.conf が作成されます。この状況は、管理サーバーからインスタンス構成に対してはじめて変更を加えられる前に、Client タグが追加された場合にのみ発生します。一度 <https-instance>-obj.conf が作成されたあとは、同じ手順を行ってもこの現象は起きません。

問題 ID	説明
6765451	<p>管理サーバーが <code>check-request-limits</code> 関数を <code>obj.conf</code> 内の不正な場所に追加する。</p> <p><code>check-request-limits</code> 関数を <code>obj.conf</code> に構成するときは、必ず <code>find-index</code> 関数の前に挿入するようにしてください。</p>
6769410	<p>変数が <code>server.xml</code> から削除されている。</p> <p>移行済みのインスタンスの CGI 変数名が Null 値の場合は、管理 GUI では保存できません。したがって、<code>server.xml</code> から削除されています。</p>
6772188	<p>Java が無効になっている場合、Web Server 7.0 の管理 GUI で「BreadCrumbsModel: index out of bounds 1」というエラーがスローされる。</p>
6709085	<p>管理サーバーの起動に失敗する。</p> <p>管理ツールではデフォルトの言語を <code>zh_cn</code> に設定できますが、そのあとサーバーが起動されず、次のエラーがスローされます。</p> <pre>config:CONF1104:File /sun/webserver7/https-agcl84.PRC.Sun.COM/config/server.xml line 98: Invalid <default-language> value:zh_cn</pre>
6759756	<p>管理 GUI を使用して <code>.war</code> ファイルをアップロードしているときに、アクセス権エラーが発生する。</p>
6762245	<p>管理 GUI を使用して新しい構成を作成しているときに空白文字を使用すると、エラーがスローされる。</p>
6777195	<p>NodeMBean の <code>setNodeProperties</code> は常に <code>server-farm.xml</code> を上書きする。上書き中に、ノードのホスト名エントリが小文字に変換される。</p>
6772231	<p>起動、構成の一覧表示、またはインスタンスやノードに直接存在しないアクティビティの最中に管理サーバーがハングアップする。</p>
6780377	<p>Web Server 7.0 管理サーバーで、<code>send-error SAF</code> の <code>reason</code> パラメータの認識に失敗する。</p>
6793862	<p>管理サーバーで、EV SSL (Extended Validation SSL Server) 証明書の認識に失敗する。</p>
6798954	<p>Web Server はバイナリロギングをサポートするべきである。</p>
6542360	<p>管理サーバーの <code>java-home</code> 設定で、スクリプトを管理する設定が伝播されない。</p>
6781234	<p>Web Server 7.0 で、JSTL <code>tlds</code> および <code>jaxp</code> の使用中に問題が発生する。</p>
6790392	<p>Web Server 7.0 Update 3 で、<code>maxSessions</code> への応答としてエラー応答の代わりに空の画面が表示される。</p>
6768357	<p>HTTP 以外の内部要求に対して <code>vs_get_mime_type</code> などの NSAPI 関数を実行すると、Web Server がクラッシュする。</p>
6776108	<p>MaxKeepAliveThread 制限を 128 から 256 に増加させる。</p>
6781976	<p>アクセスロギングはパフォーマンスに影響を与えるため、バイナリロギングが必要である。</p>
6806781	<p><code>%Req->reqpb.clf-request.protocol.version%</code> がバイナリモードで正常に設定されないため、<code>binlog</code> でエラーがスローされる。</p>
6707017	<p>ドキュメントルートにローカライズされたディレクトリが指定されると、Web Server の設定が失敗する。</p>
6753741	<p>特定の状況において、Web Server のインストーラで「PatchListener-Solaris-detectPatches-Failed」というエラーがスローされる。</p>

問題 ID	説明
6774822	AIX の場合、unconfigureServer プロセス中に「WARNING: ADMIN2028: Error removing init scripts」という警告メッセージが表示される。
6775953	Netbeans 6.5 で動作するように Web Server プラグインを更新する。
6722375	パッチ 125437-14 および 125438-14 が代替ルートに準拠していない。
6779166	Apache と比較すると、Web Server 7.0 Update 3 は Windows 上での拡張性が十分でない。
6781147	Web Server 7.0 Update 3 で、日本語エンコーディングで検索イベントを作成しようとするエラーがスローされる。
6761027	Web Server 7.0 で、ACL 用のワイルドカードによるパターンマッチングが、IP アドレスを使用すると正常に機能しない。
6775403	REQUEST_HEADERS: '/ regular expression /' が正常に機能しない。
6773327	JSP アプリケーション向けに sendfilev を有効にすると、サーバー応答に失敗する可能性がある。
6775948	nsapi.h 内に include ファイルが存在しない場合、一部の NSAPI モジュールのコンパイル中に警告メッセージがスローされる。 回避方法: nsapi.h の前に include <netdb.h> を追加します。

B.9 7.0 Update 4 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 4 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6708647	CGI および FastCGI サブシステムで、環境変数 REQUEST_URI および SCRIPT_FILENAME を設定する。
6715164	プラグインの初期化に時間のかかるサーバーインスタンスを開始すると、管理サーバーのプロセスが CPU に高い負荷をかける。
6740996	Reuters IFP との非互換性のために、サーバーがクラッシュする。
6747181	構成の配備および再起動後に、更新された証明書または新しい証明書が使用されない。
6620166	配備されたノードで 2 つの NIC がアクティブであると、セッションフェイルオーバーの動作が不正になる。
6663982	default-sun-web.xml が参照されない。
6707017	ドキュメントルートにローカライズされたディレクトリが指定されると、設定が失敗する。
6708894	新しい仮想サーバーウィザードで ASCII 以外の文字を使用できない。
6712479	ベース DN に UTF8 文字を含む LDAP 認証データベースの使用時に、次のようなエラーが発生する。 ADMIN3143: Base DN 'ou=k?v?nok,dc=red,dc=iplanet,dc=com' does not exist
6713238	ドキュメントルートディレクトリ名の末尾が .war の場合、Web Server 7.0 Update 2 の起動時にエラーが表示される。

問題 ID	説明
6713786	Web Server 7.0 Update 2 から Update 3 にアップグレードすると、不要となった一部のファイルが削除されずに残る。
6714230	Solaris でファイル記述子を解放すると、CgiStub の動作が不安定になる。
6716553	証明書の作成時に特定の国を選択すると、エラーが報告される。
6717187	新しいサーバーの構成時に、状態が正しく参照されない場合がある。
6717328	設定の登録ページに表示されるテキストフィールドが非常に小さい。
6718752	https-<instancename> という名前のファイルが存在する場合、以前の Update リリースからのアップグレードが失敗する。
6721107	新しい Java Enterprise System のインストール時に、サーバーが起動しない。
6721193	管理 GUI を使用して Web アプリケーションを配備する際、ファイルがサーバー上に存在すると、ターゲットディレクトリが無視される。
6722701	CONFIGURE_LATER が true に設定されている場合、サイレントインストールが失敗する。 CONFIGURE_LATER=true
6722702	サーバーが、後で設定するモードで構成されている場合、unconfigureServer が必要になる。
6722727	管理 GUI でサービスを作成する場合、そのサービスがすでに存在する場合でも作成できる。
6724246	「Forward Parameters」を保存する際、管理 GUI に次の不正なエラーメッセージが表示される。 Child 'from_hidden' does not have a registered descriptor in 'editReverseProxyPS1'
6728160	htaccess を使用するとサーバーがクラッシュする可能性がある。
6729296	/tmp/admin-server-xxx/configname/extracted/config/server.xml ファイルがある管理サーバー /tmp/admin-server-xxx の一時ディレクトリが、 ./admin-server/bin/stopserv の間に削除されない。
6731124	要求がサブレットまたはフィルタによりラップされて、静的リソースに転送される場合、不正なエラー HTTP 405 が返される。
6740786	<If> 文のために管理サーバー内の obj.conf ファイルが破壊されることがある。
6714929	SNMP が、Solaris 10 のデフォルトの tcp_hiwat 設定と互換性がない。
6741649	Update 2 では、get-perfdump の出力にキープアライブモードのセッションを含めるべきでない。
6743019	フランス語ロケールで管理 GUI を使用する場合、次のエラーメッセージが表示されるが、メッセージに配備時のノード名が含まれない。 The administration server has detected that you have modified some of the instance configuration files on the following nodes: \{0\}.
6751264	フランス語および日本語ロケールの管理 GUI で、登録用の Sun Online アカウントサインアップフォームが正しく表示されない。
6760687	管理サーバーにより、必ずしも最新の証明書が常に表示されない。

問題 ID	説明
6765564	オンラインインストーラのヘルプに、インストーラコンポーネントパネルから削除された言語パックが正しく反映されない。
6766109	CGI Enabled as File Type で新しい構成を作成すると、障害が発生する。
6629611	一部の管理サーバーテーブルの切り替え状態が不正になる。
6633333	リンク先がローカライズされた sun.com サイトにならない。
6608135	HTML ドキュメントのタイトルに A&B のような文字が含まれる場合、エラーが発生して検索エンジンが失敗する。
16705752	管理 GUI でサーバーヘッダーを非表示にできない。
6708548	ドイツ語ロケールで、一貫していない翻訳が提供される。
6709378	説明内のボタンとボタンのラベルが一貫していない。
6709427	logviewer 内の表タイトルの一部が壊れている。
6711035	Web Server パラメータページのフランス語翻訳の一部が削除されている。
6711518	フランス語ロケールでの「Core Server」の翻訳が一貫していない。
6712045	ボタンラベルとメッセージ文字列の翻訳は一貫しているべきである。
6723559	パスワードと再入力したパスワードが同じでなくても、登録が許可される。
6733189	wadm cli により、Web アプリケーションのパスが表示されない。
6754078	日本語の管理 GUI に文字化けしたメッセージが表示される。
6762559	「Reverse-proxy」の翻訳が一貫していない。
6763094	フランス語ロケールでの「fancy」という語の翻訳が不正である。
6715350	日本語ロケールで、OLH に無効な文字が含まれる。

B.10 7.0 Update 3 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6387762	wadm からシェル変数またはシステム変数にアクセスできない。
4793938	ディレクトリインデックスの代わりに、ユーザーとパスワードの入力ダイアログが表示される。 デフォルトでは、ユーザーが認証されないかぎり、Web Server 7.0 はディレクトリインデックスを送信しません。あるディレクトリにアクセスしようすると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。これは、Web Server 7.0 のデフォルトのアクセス制御リスト (ACL) が、認証済みユーザーだけにリストアクセス権を許可するためです。
6426116	管理コンソールの「バージョン」ボタンをクリックすると、「ファイルが見つかりません」という警告が管理エラーログに書き込まれる。
6446206	グループ内のある単一ユーザーが削除されたときに、不正なメッセージ「グループは正常に保存されました」が表示される。
6431984	Web Server の PID ファイルと UNIX ドメインソケットは、/tmp ではなく /var/run に格納されるべきである。
6475536	管理サーバーのパスワードをリセットするための明確な手段が存在しない。

問題 ID	説明
6489727	[JESMF CONFORM] CP は停止時には、MfManagedElementServer_stop() を呼び出すべきである。
6493971	サーバーインスタンスの再起動が応答しない場合に管理サーバーがタイムアウトしない。 restart-instance コマンドの実行時に、UNIX システム上の管理サーバーは、サーバーインスタンスが再起動されるまで待ちます。インスタンスが正常に再起動されない場合、管理サーバーは要求に応答しません。
6515745	Web Server で SNMP マスターエージェントプロセスが起動に失敗する
6545779	Windows で、system32 ディレクトリに古いバージョンの libnspr4.dll があると wdeploy コマンドが失敗する。

問題 ID	説明
6606243	<p>Web Server インストーラが、管理自己署名付き証明書を IE 証明書タブにインポートする必要がある。</p> <p>ブラウザを使用して管理コンソールにアクセスすると、信頼される認証局で証明書が発行されないことを示すポップアップ (IE6 および Mozilla/Firefox の場合) または警告ページ (IE7 の場合) が表示される場合があります。この原因は、管理サーバーが自己署名付き証明書を使用していることにあります。「管理 GUI ログイン」ページに移動するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Mozilla/Firefox の場合、ポップアップウィンドウの「OK」をクリックします。 ■ Internet Explorer 6 の場合、ポップアップウィンドウの「はい」をクリックします。 ■ Internet Explorer 7 の場合、ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。 <p>この手順では、そのブラウザセッション用の証明書が一時的に許可されます。証明書を永続的に許可するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Firefox/Mozilla の場合： ポップアップウィンドウの「今後この証明書を受け入れる」ラジオボタンを選択して、「OK」をクリックします。 ■ Internet Explorer 6.0 の場合： <ol style="list-style-type: none"> 1. ポップアップウィンドウの「証明書の表示」ボタンをクリックします。 別のポップアップウィンドウが表示されません。 2. 「証明のパス」タブを選択して、admin-ca-cert を選択します。 3. 「証明書の表示」ボタン、「証明書のインストール ...」ボタンの順にクリックします。 証明書インポートウィザードが起動されません。これを使用すると、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートできます。 ■ Internet Explorer 7 の場合： <ol style="list-style-type: none"> 1. 警告ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。 ログインページが表示されます。 2. アドレスバーの横にある「証明書のエラー」リンクをクリックします。 警告ウィンドウが表示されます。「証明書の表示」リンクをクリックします。 3. 「Internet Explorer 6 の場合」の項で説明した手順 1 から 3 に従って、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートします。
6606132	<p>「Sun Metaslot」ピンが設定されていない場合、自己署名付き証明書の作成に失敗する</p>

問題 ID	説明
6709477	<p>IE6 上で GUI 登録リマインダが正しく表示されない</p> <p>IE6 の select 要素は、階層構造の動作に必要な z インデックスをサポートしません。したがって、ドロップダウン (config および vs) にオーバーラップする登録リマインダが 1 つの階層として存在していても、そのドロップダウンが可視状態のままになります。</p>
6639402	<p>最大ファイル記述子数が 1024 の場合、サーバーで設定された接続キューのサイズが小さすぎる (128)</p> <p>Web Server では、さまざまなコンポーネント用にファイル記述子が予約されています。接続プールキューのサイズ、ファイルキャッシュの最大オープンファイル数、および最大キープアライブ接続数が設定されていない場合、その他のコンポーネント用にファイル記述子を予約したあとに、Web Server によって使用可能な記述子が 3 つの値の間で分割されます。最大ファイル記述子数のデフォルト値が小さいシステム (Solaris 8 や RHEL など) では、接続プールのサイズが小さい値に設定される場合があります。たとえば、RHEL の場合、最大ファイル記述子数のデフォルト値は 1024 です。接続キューのサイズが割り当てられていない場合、Web Server は 128 個の接続を接続キューに割り当てます。稼動が多いシステムでは、この値が小さすぎる場合があります。接続のタイムアウトが開始した場合、ユーザーは最大ファイル記述子数をより高い値に設定する必要があります。</p>
6644322	<p>Fastcgistub のメモリーリークにより、Fastcgi サブシステムがハングアップする</p>
6474037	<p>Ubuntu に Web Server をインストールする際の例外。</p> <p>Linux Ubuntu の場合、/bin/domainname が含まれるパッケージはデフォルトで使用できません。Web Server を正常にインストールするには、これらのパッケージをインストールする必要があります。</p> <p>パッケージをインストールするには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>sudo apt-get install nis</pre>
6414481	<p>compat-libstdc++ をインストールしないと Web Server をインストールできない。</p>
6641672	<p>compat-libstdc++-33-3* (64 ビット) バージョンがあると、REDHAT ES4.0 Linux 64 ビットのインストールに失敗する</p>
6472668	<p>Windows の場合、Web Server のインストールで -Xrs JVM オプションがデフォルトで使用される</p> <p>回避方法：『Oracle iPlanet Web Server 管理ガイド』を参照してください。</p>
6559918	<p>CLI と管理サーバーにバージョンの互換性がない場合、エラーメッセージが不明瞭である。</p> <p>Web Server 7.0 インストールを Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする際には、設定 CLI 全体、管理サーバー、およびすべての管理ノードも必ず Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードしてください。これは、Web Server 7.0 管理インタフェースと Web Server 7.0 Update 2 管理インタフェースとの連携動作が正しく行われなからです。</p>

問題 ID	説明
6595795	<p>管理コンソールで、移行したインスタンスに必要な機能が <code>obj.conf</code> ファイルに追加されない。</p> <p>JVM が無効な Web Server 6.0 インスタンスを Web Server 7.0 に移行し、移行したインスタンスを管理コンソールを使用して JVM オプション付きで有効化した場合、そのプロセスでは次の必要な行が <code>obj.conf</code> ファイルに追加されません。</p> <pre>NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee" PathCheck fn="find-index-j2ee" ObjectType fn="type-j2ee" Error fn="error-j2ee"</pre>
6641844	<p>Windows の場合、パッチを使用して Java ES 5 リリースの一部である Web Server 7 から Web Server 7.0 Update 2 リリースにアップグレードしたあとに、サーバーの起動に失敗する。</p>
6644314	<p>セキュリティパッチ 121656-16 は、Java ES 5/U1 における Sun Java System Web Server 7.0 Update 2 Linux パッチに対する必須条件です。</p> <p>ただし、このセキュリティパッチでは循環依存関係が示されるため、いずれのパッチも適用できません。</p>
6640206	<p>既存のインストール内にサンプルアプリケーションが存在しない場合、U2 へのアップグレード時にアップグレードが失敗する。</p> <p>Windows 以外 (Solaris、Linux、HP-UX) で、サンプルアプリケーションを使用せずに Web Server 7.0 または 7.0 Update 1 をインストールしており、Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする場合は、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>アップグレード中に問題が発生しました。問題のトラブルシューティングを行うには、<code><install-dir>/setup/Sun_Java_System_Web_Server_install.log</code> のインストールログを確認してください</p> <p>注: このエラーはアップグレードに影響しません。</p>
6559735	<p>サンプルアプリケーションのマニュアルで、プロパティファイルのクラスパスに <code>jar</code> ファイルを追加することを説明する必要がある。</p> <p><code>install-dir/samples/java/webapps/security/jdbcrealm/docs/index.html</code> の「Compiling and Assembling the Application」の節で、<code>jdbcrealm.build.properties</code> ファイルのクラスパスサフィックスに JDBC ドライバ <code>jar</code> ファイルを追加することを説明する必要があります。</p>
6413058	<p><code>server.xml</code> が、検索を変換して組み込むための全部のファイルパターンを格納しない。</p> <p>スキーマは、このバージョンの Web Server に含まれる管理コンソールと検索管理ツールの両方が許可する全部のファイルパターンを格納しません。また、これは、以前のバージョンの Web Server からの移行を必要とする可能性のある全部のファイルパターンを表現する手段も持ちません。</p>
6632936	<p>Red Hat Linux Enterprise Linux 5 で、検索機能が正常に機能しない。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux マシンに <code>compat-libstdc++</code> ライブラリがインストールされている場合、インストールされている <code>rpm</code> を削除し、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p>x86 32 ビットおよび 64 ビットの場合は、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールします。</p> <p>注: 信頼できない場所から <code>rpm</code> をダウンロードおよびインストールしないでください。セキュリティの脆弱性を招く場合があります。</p>

問題 ID	説明
6602075	Web Server で Sun crypto 1000 を使用するには、Solaris 10 パッチ 125465-02 (SPARC) および 125466-02 (x86) が必要である。
6432870	統計情報が有効化された要素が server.xml ファイル内で false に設定されたときに、サーブレットコンテナはその統計情報を収集する。
6567124	<p>Web Server 7.0 で実行している JSF Web アプリケーションを Web Server 7.0 Update 1 で実行すると中断する場合がある。</p> <p>Web Server 7.0 Update 1 には JavaServer Faces 1.2 テクノロジーが付属していません。すべての JavaServer Faces Web アプリケーションは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 Update 1 と連動するはずですが、ただし、JavaServer Faces 1.2 には互換性にいくつかの既知の問題があり、それらの非互換性に対処するためにアプリケーションに変更を加えることが必要になる場合もあります。この非互換性については、 https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html の JavaServer Faces リリースノートで説明されています。</p> <p>Java ES 5 Portal Server ユーザーは、Java ES 5 Update 1 がリリースされるまで Web Server 7.0 Update 1 へのアップグレードを延期することをお勧めします。</p>
6549619	Windows 2003 で、CLI からコマンドを実行すると、メッセージが正しくエンコードされない。
6630841	FastCGI ハンドラの新規ロールが、常に「英語」名で作成される。
6632818	CGI 設定ページにローカライズされていない文字列が表示される。
6628910	ローカリゼーションロケールの CLI インストーラ「Enter your option」が英語である。
6484181	<p>Portal Server は、Web Server 7.0 64 ビット起動時の JVM スタックサイズを 128K に設定するが、これは小さすぎる。</p> <p>Web Server 7.0 がすでに 64 ビットモードで設定された状態で Portal Server のインストールを開始した場合、Portal Server の構成ではスタックサイズは 128K に設定されません。これに対し、Portal Server と Web Server がどちらもすでに 32 ビットモードでインストールおよび設定されている場合に 64 ビットモードに切り替えるには、「回避方法」のセクションで説明する一連の手動手順が必要となります。</p>
6487041	<p>Java ES Web Server インストールでは schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトが存在しない。</p> <p>schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトが存在する場所は、Web Server の Java ES インストールとスタンドアロンインストールとで異なります。</p>
6550622	<p>Java ES 5 ソフトウェアを Java ES 5 Update 1 にアップグレードするときに、Portal Server をアップグレードせずに Web Server のみをアップグレードした場合、Portal Server サンプルが JSF 例外で失敗する。</p> <p>詳細については、1-6 ページの「互換性の問題」を参照してください。</p>
6643821	SMF コマンドを実行すると、startserv および stopserv スクリプトから Java ES 環境が削除される (Solaris 10 のみ)。
6549580	Windows で実行中の Web Server にサービスに関する説明が含まれておらず、Java ES Update 1 パッチの適用後も説明が更新されない。
6641175	POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。request.getInputStream().read() が -1 を返す
6576542	WS 7.0 に付属する、セッションレプリケーション機能を試すためのサンプルを使用できない
6600183	本文を FastCGI Perl に送信後に Transfer-encoding ヘッダーが送信される。

問題 ID	説明
6613414	iWS7.0U1 - Page-encoding が大文字と小文字の区別 (たとえば utf-8 と UTF-8 の区別) をしない
6613865	Cookie の符号化 / 復号化のサーブレットコンテナ実装が SJSWS6.1 以降から変更された
6641175	POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。request.getInputStream().read() が -1 を返す
6641231	2M バイトを超えるファイルのアップロードが Java Web コンテナに制限される。
6658609	web 7.0 u2 の JDBC リソース設定の待ち時間およびアイドルタイムアウトの最大値に -1 を指定できない
6660297	RDB を再起動すると web70 の JDBC リソースプールが予期どおりに動作しない。
6671260	標準エラー出力メッセージを FastCGI からエラーログにリダイレクトできない。FastCGI から標準エラー出力に送信されるデータは、エラーログに記録されません。
6671957	ファイル圧縮機能のマニュアルがない (SJSWS7.0)
6671992	Web Server マニュアルで、フィルタの適用範囲と内容についてより具体的に記述する必要がある
6680376	特定の htaccess 構成でサーバーがループに陥る
6681681	/context-root (コンテキストのルート) と指定して Web アプリケーションの開始ファイルリストをアクセスすると、フィルタが 2 回適用される 開始ファイルを /context-root としてアクセスすると、現在のフィルタが 2 回適用されます。
6708333	web 7.0 u2 patch 125437-13 は前提条件として nss patch 3.11.8 以降が必要であることをドキュメント化すべきである
6697002	pull-config を実行すると、config/ ディレクトリ内のバイナリファイルが、トークン化が原因で文字化けする (SJSWS7.0u2)
6701520	インストール中にユーザーが特定の umask 設定をしている場合、インスタンスが起動しない
6710993	es、fr - OLH がスローされた例外を表示しない
6641109	NFS マウントされた docroot ディレクトリを使って設定された Web Server がクラッシュする NFS を使用していて MediumFileSizeLimit>0 の場合に NFS ファイルが削除または置換されると、Web Server がクラッシュします。したがって、ドキュメントルートが NFS 上にマウントされている場合は、MediumFileSizeLimit>0 を使用しないようにしてください。 回避方法： NFS クライアントのように、Web Server のドキュメントが NFS マウント上に存在している場合には、nsfc.conf 内で MediumFileSizeLimit を 0 に設定します。

B.11 7.0 Update 2 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 2 で解決済みの問題の一覧を示します。

問題 ID	説明
6467621	「Sun Software PKCS#11 softtoken」使用時にサーバーへの要求が失敗する。
6564797	接続キュー、キープアライブサブシステム、およびファイルキャッシュのサイズ変更は、サーバーが自動的に行うべきである。
6493271	Web Server 7.0 における Java ガバージコレクタのアクティビティーが、Web Server 6.1 の場合と比較して高い。 Web Server 7.0 のサーブレットコンテナは、多数の Java オブジェクトを作成します。
6497803	部分要求と welcome ファイルによって形成された要求 URI にサーブレットがマップされた場合、その動作が正しくない。 Web コンテナは、有効な部分要求を受け取ると、配備記述子内に定義された welcome ファイルリストを調べる必要があります。welcome ファイルリストとは、先頭や末尾に / が付いていない部分 URL の、順序付けされたリストのことです。Web Server は、各 welcome ファイルを配備記述子内で指定された順番で部分要求の末尾に追加し、静的リソースまたは WAR ファイル内のサーブレットがその要求 URI にマップされているかどうかをチェックする必要があります。Web コンテナは、WAR 内で最初に一致したリソースに、その要求を送信する必要があります。
6316881	req.getHeader() でヘッダー内の複数バイト文字を取得できない。 request.getHeader() の呼び出し時に、文字が正しく解析されません。
6554326	ハードコードされたメッセージ "ADMIN 3594: Configuration changes require a server restart" がローカライズされていない。
6565615	日本語ロケールのオンラインヘルプで、「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明で Directory Server の名前が誤って記述されている。 正しい説明は次のようになります。「認証データベースの編集」PAM -- PAM は Sun Java System Web Server 7.0 によってサポートされる新しい認証データベースです。
6563951	先頭にスラッシュが付いた検索コレクションサブディレクトリが原因で、紛らわしいエラーが発生する。 検索コレクションを作成し、先頭にスラッシュが付いたドキュメントルートサブディレクトリを設定しようとする、先頭にスラッシュが必要であることを誤って通知するエラーメッセージが表示されます。
6571208	ディレクトリ一覧表示タイプに一貫性のない表現がある。 「インデックス作成が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル」という一文を、「一覧表示が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル (Error response file to use when listing is None)」に変更する必要があります。
6549584	国名一覧の中で「Other」という単語が翻訳されていない。
6556225	「ドキュメントの追加」ウィンドウで、サブディレクトリの「含める」チェックボックスが翻訳されていない。
6565615	日本語ヘルプ: 「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明が誤っている。
6628918	日本語の管理 GUI メッセージの翻訳に問題がある。
6628917	GUI インストーラ OLH の翻訳に問題がある。

問題 ID	説明
6604075	Java ES で、Web Server 7.0 起動時に Access Manager で null ポインタ例外が表示される。
6479062	Solaris SPARC、Linux、および HP-UX プラットフォームで HTTP リスナープロトコルファミリを nca に設定すると、Web Server が起動しない。 EditHTTPListener ウィザードで Protocol-Family プロパティを nca に設定すると、Web Server インスタンスは再起動しません。
6464953	set-authdb-prop CLI を使用して digestauthstate プロパティを設定すると、値の検証が行われず、このプロパティにとって無意味な値が許可されてしまう。
6504050	管理コンソールのすべてのウィザードの「結果」ページで、位置合わせを適切に行うべきである。
6473376	デフォルトの server.xml に <stack-size> 要素を含めるべきである。
6367751	create-instance コマンドがリモートノード上で断続的に失敗し、HTTP 400 エラーがログに記録される。
6547264	あるリモートノードの起動直後に create-instance コマンドを実行すると、そのリモートノード上でそのコマンドが失敗する。
6468132	ニックネームにコロンの含まれる証明書は、list-cert コマンドを実行しても表示されない。
6437577	<pkcs11> 要素は、子要素が存在しなくても server.xml から削除されない。
6473589	トークン PIN を設定すると、<pkcs11/> が server.xml に追加される。
6534202	管理コンソール経由で WebDAV コレクションプロパティを編集できない。 同じ構成が複数のノードに配備されている場合には、共用の場所として lockdb パスをすべてのノードで同じパスにマウントする必要があります。また、管理コンソールから lockdb 内のロックをリストしたり失効させたりするには、この同じパスに対して管理サーバーを書き込み可能にしてください。
6554691	add-webapp コマンドに JSP プリコンパイルオプションを指定して実行すると、コマンドは以前にプリコンパイルした JSP ファイルを削除しない。
6556820	管理コンソールまたは管理 CLI は、管理サーバーへの CA 証明書の追加をサポートしていない。
6489269	引用符で囲まれたパスを含む「external」式関数が、動作しない。
6432375	HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。
6483212	HP-UX 11.11 上で、最大ヒープサイズが 2048M バイト以上である場合に Web Server の起動が失敗する。
6474011	basic-search.html の説明が不明瞭である。
4988156	スタンドアロン製品を既存の Java ES インストール上にインストールすること、およびその逆がサポートされていない。
6610103	Windows で Java を無効化したあとに、構成を配備して起動することができない
6856484	接続キュー、キープアライブサブシステム、およびファイルキャッシュのサイズ変更は、サーバーが自動的に行うべきである。

B.12 7.0 Update 1 において解決済みの問題

次の表に、Sun Java System Web Server 7.0 Update 1 で解決済みの問題の一覧を示します。

バグ ID	説明
6390112	<p>Java LDAP 接続プールの相互作用の問題 - 初期接続がタイムアウトしない。</p> <p>server.xml ファイル内で JVM オプションを使って Java LDAP 接続プールを指定し、このプールを Web Server 起動時に外部 JNDI リソースを使って参照すると、プールされた LDAP 接続が作成されます。この接続があると、プールは常にビジーとして指定され、この接続の有効期限が切れることはありません。</p>
6472223	<p>「mail-resource」サブ要素の値がメールセッションオブジェクトに設定されない。</p>
6487083	<p>NSAPIRequest.setupRequestFields が低速である。</p> <p>com.sun.webserver.connector.nsapi.NSAPIRequest.setupRequestFields が低速です。その主な原因は、Cookie ヘッダー解析時に、文字列からバイトおよびバイトから文字列への変換が過剰にあるためです。</p>
6501785	<p>サーブレットコンテナが、RequestDispatcher インクルードの処理時にアクセラレータキャッシュを使用しない。</p>
6500647	<p>Windows 上で JSP の動的再読み込みを行うと、不正な出力が生成される。</p>
6433752	<p>ssl-check が NSAPI ベースのプラグインと連携動作しない。</p> <pre>"PathCheck fn="ssl-check" secret-keysize=128 bong file="xxxxx.yyy.html"</pre> <p>静的ファイルの要求に対し、クライアントの secret-keysize がサーバーによって指定されたサイズよりも小さく、かつ bong ファイルが存在しているならば、その bong ファイルは応答として送り返されます。ところが、動的コンテンツ (JSP ファイルなど) が要求された場合には、bong ファイルではなく、実際に要求されたオブジェクト (たとえば、JSP ファイル) が返されます。</p>
6421617	<p>サーバーにより解析される HTML (ParseHTML) と「restricted by group」オプションを含む .htaccess で問題が発生する。</p> <p>shtml インクルードエントリを含み、「restricted by group」オプションが有効化された .htaccess 経由で認証されるように設定された HTML ファイルを解析すると、認証が成功します。グループユーザーが認証されても、結果ページは shtml インクルードエントリを取得しません。ただしこれは、「restricted by user」オプションを含む .htaccess ファイル内のユーザーとは正常に連携動作します。</p>
6489913	<p>SSL のセッションキャッシュを無効にできない。</p> <p>セッションキャッシュはデフォルトで有効になっています。セッションキャッシュが無効になった状態で HTTPs プロトコル経由で URL にアクセスすると、URL の処理は完了せず、サーバーログには、session-cache なしでは SSL を設定できないことを示すエラーメッセージが表示されます。</p>
6302983	<p>サンプルが「Sun Java System」ではなく「Sun ONE」を参照している。</p> <p>Web Server 7.0 に同梱されているサーブレットサンプル LocaleCharsetServlet.java は、「Sun Java System」ではなく「SunONE」を参照しています。</p>
6495588	<p>sampleapps/java/webapps/simple ドキュメントが無効である。</p> <p>単純なサンプルアプリケーションのドキュメントに、不正なパス名が記載されています。パスは、install-dir/samples/java/webapps/simple/src ではなく install-dir/plugins/java/samples/webapps/simple/src にしてください。</p>

バグ ID	説明
6347905	FastCGI を設定するための CLI サポートがない。obj.conf または magnus.conf ファイルを手動で編集して、FastCGI を設定する必要がある。
6504587	FastCGI にメモリーリークが見つかった。
6479045	管理コンソールのオンラインヘルプを更新する必要がある。 オンラインヘルプは、次の理由のために更新する必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コンテキストベースのヘルプを提供すべきである。 2. すべての画面について、対応するヘルプページを用意する必要がある。 3. GUI の変更をヘルプページに反映させる必要がある。 4. GUI とオンラインヘルプとの間で、用語の使用法に一貫性がない。 5. 文法上の間違いを修正する。 6. いくつかのトピックについて詳しく説明する。
6482764	オンラインヘルプと管理コンソールとの間に不一致がある。
6498477	トークン設定ページにヘルプファイルが存在しない。 「共通操作」 > 「構成を編集」 > 「証明書」 > 「PKCS11 トークン」の画面にヘルプファイルがありません。
6479062	HTTP リスナーファミリを動的に再設定できない。プロトコルファミリを nca に設定すると、インスタンスが起動しない。
6482536	<listen-queue-size> の上限が 65535 に設定されているが、これでは小さすぎる。 <listen-queue-size> の上限を引き上げる必要がある。
6500715	新しい cgi ディレクトリの作成時に不正な ObjectType fn="force_type" が object.conf に追加される。 新しい cgi ディレクトリの作成時に、不正なオブジェクトタイプ force_type が obj.conf ファイルに追加されます。
6479247	Windows 上で、配備後にインスタンスを再起動すると、トークンパスワードの入力ダイアログボックスが表示される。この動作はほかのプラットフォームでは見られない。
6425144	Windows の場合、クラスパスにセミコロン (;) が含まれていると、wadm がクラスパスを正しく更新しない tcl 内のセミコロンはコマンドターミネータとして解釈され、単一行中の複数のコマンドを分類するために使用されます。Windows では、セミコロンはパス区切り文字として使用されます。
6292582	「iwsFractionSysMemUsage」の SNMP 管理情報ベース (MIB) が正しい結果を表示しない SNMP マネージャーユーティリティーがクエリーを発行したときに、iws.mib の一部である、SNMP MIB の「システムメモリー中のプロセスメモリーの一部」が間違った結果を出力します。
6471744	設定値を指定せずに list-tokens コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6471754	認証データベース値を指定せずに list-authdb-userprops コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6472210	無効な http-listener 値を指定して get-ssl-prop コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6476111	管理コンソールを使って MIME タイプを編集できない。

バグ ID	説明
6478601	存在しないインスタンスを停止させると、不適切なメッセージが表示される。 存在しないインスタンスを停止しようとする時、エラーメッセージ「サーバーインスタンスは正常に停止しました。」が表示されます。
6480523	wadm によって、負のポート番号を含む設定が許可される。
6489765	無効な key-size 値を指定して create-cert-request コマンドを実行した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6489777	delete-group コマンドで無効なグループ値を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6489779	無効な group-ID 値を指定して list-group-members コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6490728	set-reverse-proxy-prop コマンドを使って rewrite-location プロパティを設定できない。 -rewrite-location プロパティを false に設定することはできません。 -rewrite-location に指定された値は検証されません。たとえば、 i-rewrite-location オプションに = 記号を指定すると、obj.conf ファイルが破壊され、パーサーエラーが発生します。
6492315	set-token-prop コマンドでトークン PIN を指定していなくても、server.xml ファイル内に間違ったパスワードが設定される。
6492469	LDAP ユーザー作成の失敗時に不正なエラーメッセージが表示される。
6494353	インスタンスの削除中に無効なノード名を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6494950	register-node コマンドは、シェルモードでのみ、非 SSL ポートで正常に実行される。 シェルモードでは、-no-ssl オプション付きで register-node コマンドを入力すると、ノードが正常に登録されます。なぜなら、コマンドが間違っても SSL モードで実行されるからです。
6405018	シェルモードでエコーが有効なときに、get-jvm-prop コマンドによってこのコマンドが出力されない。
6499507	list-locks および expire-lock コマンドの実行時に不正なエラーメッセージが表示される。
6499510	設定名を指定せずに list-instances、list-crls、list-tokens、および list-certs コマンドを実行すると、「null」メッセージが表示される。
6499512	list-url-redirects コマンドのエラーメッセージがローカライズされていない。
6500119	ある既存の証明書を削除しようとしているときに無効な設定名を指定した場合、wadm によってトークン PIN の入力が求められる。
6500146	CLI を使用して HTTP リスナーを作成するときに、名前として null 値を持つリスナーが create-http-listener コマンドによって作成される。
6500150	list-dav-collections コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500151	list-users、list-org-units、list-groups、および list-group-members コマンドの実行時に認証データベースを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500152	list-uri-patterns コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。

バグ ID	説明
6500154	list-userprops CLI で不正なメッセージが発生する。 list-jdbc-resource-userprops、list-soap-auth-provider-userprops、list-auth-realm-userprops、list-external-jndi-resource-userprops、list-custom-resource-userprops コマンドの実行時に、JNDI 名を指定しなかったか無効な JNDI 名を指定した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6503350	無効な wadm コマンドを入力したときに表示されるエラーメッセージが誤解を招く恐れがある。 無効なコマンドを入力すると、エラーメッセージ「無効なコマンド<コマンド名>。有効なコマンドのリストを表示するには、「help」コマンドを使用してください。」が表示されます。help のマニュアルページには、有効なコマンドのリストは含まれていません。したがって、このエラーメッセージは誤解を招く恐れがあります。
6503944	LDAP 認証データベースに対する create-user コマンドの使用法があいまいである。
6504095	set-cert-trust-prop コマンドによって不正なプロパティが受諾され、適切なエラーメッセージが表示されない。
6443845	指定されたトークンのパスワードの長さや機構のサポートが、管理サーバーによって検証されない。
6449506	既存の証明書と同じサーバー名を持つ証明書を、同じニックネームで作成できない。
6461553	「仮想サーバーの Web アプリケーション」ページのタイトルのヘルプが正しくない。
6473518	インスタンス起動時にトークン PIN を入力するプロンプトは、設定が配備されていない場合には表示されないようにすべきである。
6476095	ドキュメントディレクトリおよび CGI レコードを編集するオプションが、管理コンソールに用意されていない。
6476736	仮想サーバーレベルで MIME マッピングを追加および編集するためのタブを、管理コンソールに用意すべきである。
6478090	「ノード」->「管理サーバーを選択」->「証明書」->「トークンパスワード管理」ページの「現在のパスワード」フィールドは、管理者のトークンパスワードが設定されていない場合は無効化すべきである。
6490705	管理コンソールを使って URI パターンに固有の設定を行えない。
6496545	管理 CLI 経由でカスタム認証データベースユーザープロパティを作成すると、管理コンソールに無効なプロパティが表示される。
6502303	管理コンソールの「移行」ウィザードで「完了」ボタンを複数回クリックすると、複数の設定が作成される。
6504495	管理コンソールには 508 コンプライアンスの問題がある。
6504951	「共通操作」->「仮想サーバーを編集」->「WebDAV」->「新規」ページのユーザー選択プロセスで、検証を行う必要がある。
6360666	インストールされた CRL は、意味のある名前を持つべきである。
6364821	管理 CLI は、URI、URI プレフィックス、URI ワイルドカードパターン、および URI 正規表現を、URI 空間で動作するすべてのコマンドに対してサポートすべきである。
6366956	スケジュールイベントの検索機能が、管理コンソールから正しく機能しない。
6378612	64 ビットのインスタンスが 32 ビットのリモートノード上で起動しない。
6423391	DER 形式以外のデータを含むサーバー証明書をインストールするときに、不正なエラーメッセージが表示される。
6439132	「証明書インストール」ウィザードの例外が不明瞭である。

バグ ID	説明
6468676	「Java ホーム」フィールドの検証機能が存在しない。無効なデータが受諾されてしまう。
6474668	「HTTP リスナー」フィールドに空白文字を含む名前が受諾される。これは無効である。
6476111	管理コンソールまたは CLI のいずれを使っても MIME タイプを編集できない。
6483365	GUI と CLI で、移行用の Web Server 7.0 のサーバールートが受諾されてしまう 管理コンソールと CLI では移行時に、Web Server 6.1 や Web Server 6.0 のパスの代わりに Web Server 7.0 のパスが受諾されます。Web Server 7.0 のパスは、migrate-server コマンドの server-root プロパティの有効なパスではありません。
6492176	管理コンソールを使って新しい設定を作成および保存するときに、デフォルト値や null 値が obj.conf 内に格納される。 管理サーバーは、管理コンソールから渡された値を、何の検証も行わずに obj.conf ファイル内に格納します。
6497004	set-authdb-prop 実行時に CLI 上に SaveConfigException が表示される。 set-authdb-prop コマンドを使用して存在しないファイルパスを keyfile authdb の path プロパティに指定した場合、File does not exist というメッセージの代わりに、SaveConfigException が発生します。 管理サーバーのエラーログを参照してください。
6497143	stop-admin コマンドの実行時に、管理サーバーが実際に実行中であるのに「管理サーバーは停止中です」というメッセージが表示される場合がある。
6498411	get-cert-prop では、<displayproperties> 要素内に記載されたプロパティだけが表示されない。
6500715	cgi-bin ディレクトリ内のファイルにアクセスしようとすると、サーバーエラーが発生する。
6364702	wadm コマンドの成功時または失敗時に、有効なエラーコード [0-125] が返されない。
6370032	RequestDispatcher インクルード呼び出しを使用すると、セッションフェイルオーバーが実行されない。 1 つのクラスタ上に 2 つの Web アプリケーションを配備し、一方のアプリケーションが他方のアプリケーションを RequestDispatcher() インクルード呼び出しを使用して呼び出すようにした場合、RequestDispatcher () の invoke() メソッドの実行中に持続性バルブが呼び出されないため、セッションレプリケーションが実行されません。
6381950	BaseCache に不正な負荷係数が設定される。 セッションレプリケーションは 3 つ以上の Web アプリケーションをサポートしません。
6381954	RequestDispatcher に関連する複数の Web アプリケーションでは、不正なシーケンスが原因でセッションレプリケーションの実行が失敗する。
6383313	SR-instanceId Cookie に不正なパスが設定される。 SR-instanceId Cookie には、サーバーレットのパスではなく Web アプリケーションのパスが設定されるべきです。
6450360	create-authdb コマンドで、認証データベース (authdb) の作成時に URL が検証されない。create-authdb コマンドを実行すると、間違った URL を持つ認証データベースが正常に作成される。

バグ ID	説明
6450800	get-error-log および get-access-log コマンドで、雑然とした不適切なメッセージが表示される。
6459106	wadm deploy によるクラスタ設定の配備が失敗する。 手動またはその他の手段によってインスタンスの設定ファイルに何らかの変更が加えられた場合、 deploy-config コマンドによって、インスタンスが変更されたことを知らせるエラーメッセージが表示されます。
6462891	Web アプリケーションをユーザー固有の場所に配備するための管理コンソールが存在しない。
6439577	wadm コマンドプロンプトから間違えたトークン PIN を使ってインスタンスが起動されたときに、トークンパスワードが求められない。
6465470	「グループ設定」ページのテキストが間違っている。 テキストは「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加 / 削除します。」ではなく、「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加 / 削除できます。」とすべきです。
6465480	JVM プロファイラを削除するときのメッセージが不正である。 メッセージは「プロファイラが正常に保存されました」ではなく「プロファイラが正常に削除されました」とすべきです。
6466409	Web アプリケーションの追加時に間違えたパスを指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6467164	管理コンソールウィザードのウィンドウタイトルに一貫性がない。
6467785	無効な Directory Server 設定値を入力すると、管理コンソールに不正なエラーメッセージが表示される。
6470585	ドキュメントディレクトリの URI プレフィックスが「\」を含まない値を受諾してしまう。
6471737	list-instances コマンドで、設定値を指定しなくてもインスタンスが一覧表示される。
6472385	CLI 経由で行なったトークンパスワードの変更が GUI に反映されない。ブラウザを再描画する必要がある。
6467665	migrate-jks-keycert コマンドを使って無効なファイルパスを持つ証明書を移行しようとする、 keystore-password と key-password の入力を求められる。
6469104	create-selfsigned-cert コマンドでサーバー証明書を作成するときに、不適切な有効期間を定義できてしまう。
6469109	delete-cert コマンドでは、トークン「Sun Software PKCS#11 softtoken」を使って作成された証明書が削除されない。
6471649	list-events コマンドの出力が正しく位置合わせされていない。
6474584	dayofweek が「*」をオプションとして受け取らない。 たとえば、ACL を次のように設定します。 <pre>acl "uri=/"; deny (all) dayofweek="*"; allow (all) dayofweek="Sat,Sun";</pre> このプログラムでは、土曜日と日曜日を除いたすべての曜日のアクセスを制限しようとしています。このプログラムは正しく機能しません。なぜなら、月曜日にこの ACL に正常にアクセスできるからです。

バグ ID	説明
6477840	クラスパスのプレフィックス、クラスパスのサフィックス、およびネイティブライブラリパスのプレフィックスを入力するための広いテキスト領域を、管理コンソールに用意すべきである。
6478165	「CRL をインストール」 ページでは、サーバー上の CRL ファイルへの不正なファイルパスが入力されたあとのユーザビリティに問題がある。
6478229	「インスタンス」 -> 「新規」 ページのタイトルが正しくない。
6478292	「共通操作」 -> 「構成を選択」 -> 「仮想サーバーの選択」 -> 「仮想サーバーを編集」 -> 「WebDAV」 -> 「新規」 ページに「ユーザー」の入力フィールドが表示されるのは、認証データベースが PAM の場合だけにすべきである。
6478303	管理コンソールでは、ACL のユーザー情報またはグループ情報を入力しなくても ACE を作成できる。認証データベースが PAM かどうかのチェックが行われない。
6478612	「要求ヘッダータイムアウト」テキストフィールドに受諾される値の範囲に関するインラインヘルプが間違っている。
6500228	ある MIME タイプの重複するレコードを作成すると、管理コンソールに例外が表示される。
6501807	管理コンソールを使用して新しい Web アプリケーションを配備すると、既存のすべての Web アプリケーションのセッションが終了する。
6504748	インスタンス削除オプションを使うと、アンインストールは、シンボリックリンクを削除する代わりにシンボリックリンクからファイルを削除する。
6505994	URI パターンが空のままプロパティを作成するとクラッシュが検出される
6510486	htaccess 規則がメモリー内で破壊される可能性がある。 単一の .htaccess ファイルに 6 つ以上の許可規則または拒否規則が含まれている場合、いくつかの規則がメモリー内で破壊される可能性があります。この問題が発生すると、いくつかの規則の処理が無視される可能性があります。
6506936	インスタンスの webapps ディレクトリ内で JSP またはその他のファイルを変更すると、deploy-config が失敗する。 管理コンソールまたは CLI から pull-config を使うと、instance-dir/config ディレクトリの中身だけが config-store に取り込まれます。Web Server 7.0 では、pull-config を使うと、中身は instance-dir/config、instance-dir/lib、および instance-dir/web-app ディレクトリに取り込まれていました。
6492407	フロントエンドファイルのアクセラレータキャッシュ。 ACL および obj.conf の設定によっては、フロントエンドアクセラレータキャッシュは、NSAPI を使って以前に処理された URI に対する静的ファイル要求を処理できます。アクセラレータキャッシュはデフォルト設定で実行する必要があります。
6498928	0 バイトのファイルに対して、出力指令が呼び出されない。 応答の長さが 0 の場合は、protocol_start_response() が呼び出されないかぎり、出力指令は呼び出されません。send-file は protocol_start_response() 関数を呼び出しません。0 バイトのファイルを送信しても、出力指令は呼び出されません。
6502258	出力バッファが大きいとサーバーがクラッシュする。 出力ストリームバッファサイズが入力バッファサイズよりも大きい場合、サーバーが無効なアドレスにデータをバッファリングしようとする可能性があります。デフォルトの入力バッファサイズは、8192 バイトです。
6504755	デフォルトサーバーインスタンスでアクセスロギングを無効にできない。 server.xml ファイル内では、<access-log> <enabled> 要素の値が無視されます。

バグ ID	説明
6505390	<p>アクセラレータキャッシュが <code>ssl-unclean-shutdown</code> プロパティを処理しない。</p> <p>アクセラレータキャッシュが、デフォルト設定内の <code>AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*"</code> 指令と正しく相互に作用しません。そのような指令が存在する場合、アクセラレータキャッシュは、使用するブラウザの種類にかかわらず、「クリーンでないシャットダウン」設定をすべての接続に適用します。</p>
6432375	<p>HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。</p> <p>回避方法</p> <p>HP-UX API のサポートの欠如およびその複雑さのために、ネットワークの入出力トラフィック統計情報が実装されていません。トラフィック統計情報を監視するには、HP のツールを使用してください。</p>
6430293	<p>管理コンソールに表示される <code>AdminException</code> メッセージがローカライズされていない。</p>
6508299	<p>英語以外のロケールで、オンラインヘルプの左パネルに、検索結果が文字化けして表示される。</p>
6507819	<p>ローカライズ版のオンラインヘルプのコンテンツが、英語版と一部異なっている。</p>
6536820	<p>Tinderbox 上で QA 回帰テストの実行時に、断続的に <code>deploy-config</code> が失敗する。</p>
6486480	<p><code><replacement>>false</replacement></code> を指定すると、<code>service-nsfc-dump</code> のエントリヒット数が 0 になる。</p> <p><code>server.xml</code> ファイル内で <code><replacement>>false</replacement></code> を指定すると、<code>service-nsfc-dump</code> 出力のエントリヒット数が 0 と表示されます。ただし、キャッシュヒット数は正しく表示されます。</p>